

本書の構成

第1章 概要とシステム要件

この章では、REMCS エージェントの機能概要、および REMCS エージェントを使用するためのシステム要件について説明しています。

第2章 サービス開始前の準備

この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。
これらのソフトウェアをインストールすることで、REMCS のサポートサービスを開始できるようになります。

第3章 サービスの開始

この章では、サービスを開始する手順について説明しています。センタへの接続形態別にサービスの開始手順が異なります。センタへの接続形態については、「1.2 REMCS センタとの接続形態」(→ P. 10) を参照してください。

第4章 障害発生時の対応

装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。
この章では、障害発生時の対処方法について説明します。

第5章 REMCS エージェントのトラブルシューティング

この章では、REMCS エージェントに関するトラブルとその対処方法、環境チェックツールの使い方、REMCS エージェントのアンインストール方法について説明しています。

付録

この章では、旧サーバ機種をお使いの場合のサポート情報について説明しています。

本書の表記

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
 ↑ ↑

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- 上記のようなコマンド入力について、英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
[CD-ROM ドライブ]:\\$setup.exe

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例： 「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
リモートサービスボード	RSB
サーバマネージメントアシストボード	SMB
Microsoft® Windows® 2000 Server、 Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server Microsoft® Windows® 2000 Datacenter Server	Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Network Operating System Version4.0 および Microsoft® Windows NT® Server, Enterprise Edition 4.0	Windows NT
Microsoft® Windows® 2000 Microsoft® Windows NT® Service Pack	Service Pack
Intel® LANDisk® Server Manager	LDSM

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。
Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Xeon は、米国インテル社の登録商標および商標です。
Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

目次

第 1 章 概要とシステム要件

1.1 REMCS エージェントの機能	8
1.1.1 特長	8
1.1.2 機能	9
1.2 REMCS センタとの接続形態	10
1.2.1 インターネット接続	10
1.2.2 インターネット接続（メール）	10
1.2.3 管理サーバ接続	10
1.2.4 P-P 接続	11
1.2.5 VPN 接続	12
1.3 必要なシステム	13
1.3.1 動作環境	13
1.3.2 RSB について	13

第 2 章 サービス開始前の準備

2.1 サービス開始までの流れ	16
2.1.1 一般サーバの場合	16
2.1.2 ブレードサーバの場合	17
2.2 SNMP サービスのインストール	18
2.2.1 Windows NT の場合	18
2.2.2 Windows 2000 の場合	19
2.3 REMCS エージェントのインストール	21

第 3 章 サービスの開始

3.1 インターネット接続の場合	24
3.1.1 レジストレーション	24
3.1.2 環境設定	28
3.1.3 接続確認	32
3.2 インターネット接続（メール）の場合	33
3.2.1 レジストレーション	33
3.2.2 環境設定	37
3.2.3 接続確認	40
3.3 管理サーバ接続の場合	42
3.3.1 環境設定	42
3.3.2 レジストレーション	46
3.3.3 接続確認	49
3.4 P – P 接続の場合	50
3.4.1 レジストレーション	50
3.4.2 環境設定	54

3.4.3 接続確認	57
3.5 VPN 接続の場合	58
3.5.1 レジストレーション	58
3.5.2 環境設定	62
3.5.3 接続確認	65
3.6 サービス開始後の設定変更	66
3.6.1 レジストレーションの変更	66
3.6.2 環境設定の変更	67
3.7 オンラインアップデート	70
3.7.1 フームウェアのアップデート	70
3.7.2 REMCS エージェントのアップデート	72
3.8 REMCS センタとの接続停止／再開	74
3.8.1 REMCS センタとの接続を停止する	74
3.8.2 REMCS センタとの接続を再開する	74
3.9 構成情報送信	76

第 4 章 障害発生時の対応

4.1 障害発生について	78
4.1.1 通知される主な障害	78
4.1.2 サーバに表示されるメッセージ	80
4.2 保守作業の開始／終了	81
4.2.1 保守作業開始の通知	81
4.2.2 保守作業終了の通知	81
4.3 ソフトウェア調査資料の収集	82
4.3.1 製品名一覧から資料を収集する	83
4.3.2 ファイル名を指定して資料を収集する	85
4.3.3 調査資料の保存場所	86
4.4 調査資料の管理	88
4.5 SIRMS の環境設定	91

第 5 章 REMCS エージェントのトラブルシューティング

5.1 インストール時のトラブル	94
5.2 サービス開始時のトラブル	95
5.3 運用操作メニューのトラブル	100
5.4 その他のトラブル	108
5.4.1 アンインストール時のトラブル	108
5.4.2 管理サーバ接続時のトラブル	109
5.5 REMCS エージェント環境チェックツール	110
5.5.1 REMCS エージェント環境チェックツールとは	110
5.5.2 使用方法	112
5.5.3 注意事項	117
5.6 REMCS エージェントのバージョン確認	118

付録

A REMCS エージェントの上書きインストール	122
B ソフトウェア調査資料の収集と送信（SIRMS バージョン 1 の場合） 123	
B.1 製品名一覧から資料を収集する	124
B.2 ファイル名を指定して資料を収集する	125
B.3 調査資料の保存場所	126
B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する	127
B.5 調査資料の管理	129
C SMB に関する操作	131
C.1 H200 / N400 をお使いの場合（メンテナンス区画の変換）	131
C.2 SMB ドライバの起動	131
C.3 サービス開始時の設定	133
D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール	138
D.1 インストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合	138
D.2 インストール V6.0 L10A/20/30 の場合	140
D.3 アンインストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合	143
D.4 アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合	144

第1章

概要とシステム要件

この章では、REMCS エージェントの機能概要、
および REMCS エージェントを使用するための
システム要件について説明しています。

1.1	REMCS エージェントの機能	8
1.2	REMCS センタとの接続形態	10
1.3	必要なシステム	13

1.1 REMCS エージェントの機能

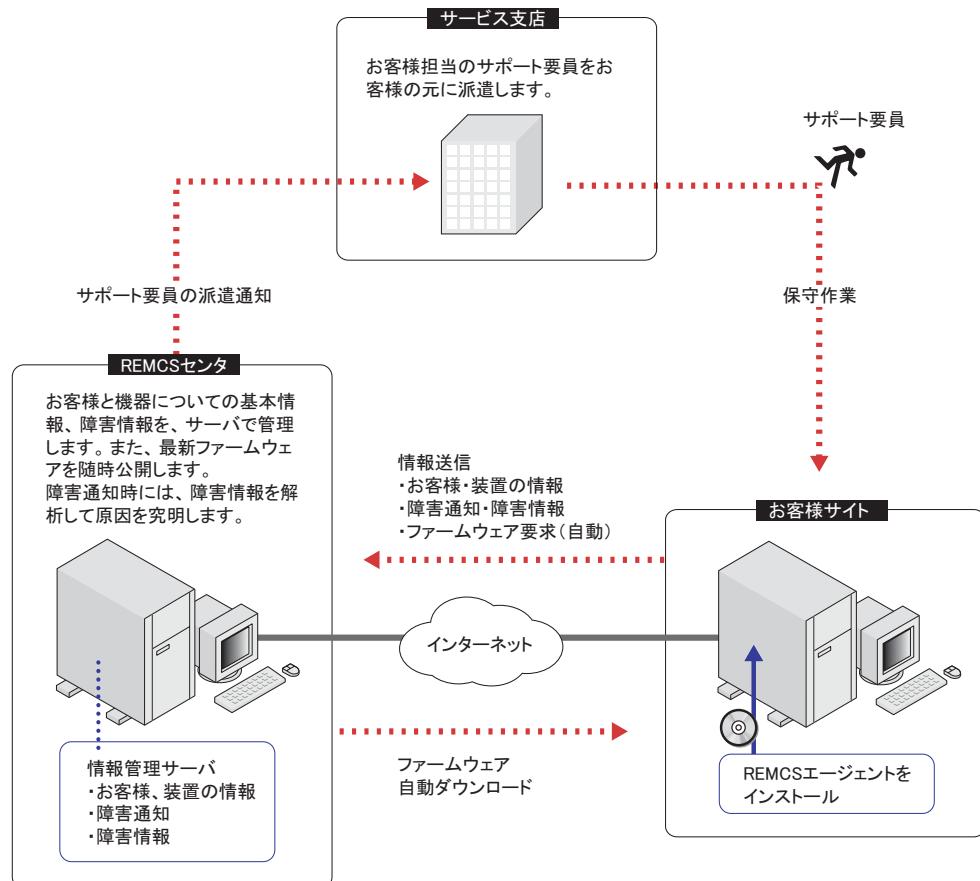
REMCS エージェントは、REMCS（リモート顧客サポートシステム）を利用するためのソフトウェアです。

ここでは、REMCS エージェントの特長と機能について説明します。

1.1.1 特長

弊社は、お客様のサーバで発生した障害などに迅速に対応するために、REMCS（リモート顧客サポートシステム）を提供しています。このシステムは、お客様のサーバと弊社 REMCS センタをインターネット経由で接続し、情報の収集や最新版プログラムへのアップデートなどを行います。

REMCS エージェントは、REMCS を利用するためのソフトウェアです。お客様のサーバにインストールすることで、サーバの情報収集や REMCS センタへの情報送信などを行います。



■ REMCS および REMCS エージェントを利用するメリット

- ・迅速、的確なサポート

REMCS エージェントは、お客様のサーバの最新情報を定期的に REMCS センタに送信します。そのため、電話や FAX によるサポートと比べ、迅速で的確なサポートを受けることができます。特に、障害発生時には、原因究明に必要な情報が REMCS センタに送信されるため、サポート要員に詳細な説明をすることなく、的確な処置を受けることができます。

- #### ・修正プログラムの自動受信、適用

REMCS エージェントは、サーバの最新ファームウェアや REMCS エージェント自身の修正プログラムを、REMCS センタからダウンロードします。

ファームウェアの適用は、お客様がサーバの電源を入れ直した際に自動的に行われます。これにより、サーバを常に最新の状態に保つことができます。

1.1.2 機能

REMCS エージェントの機能は、次のとおりです。

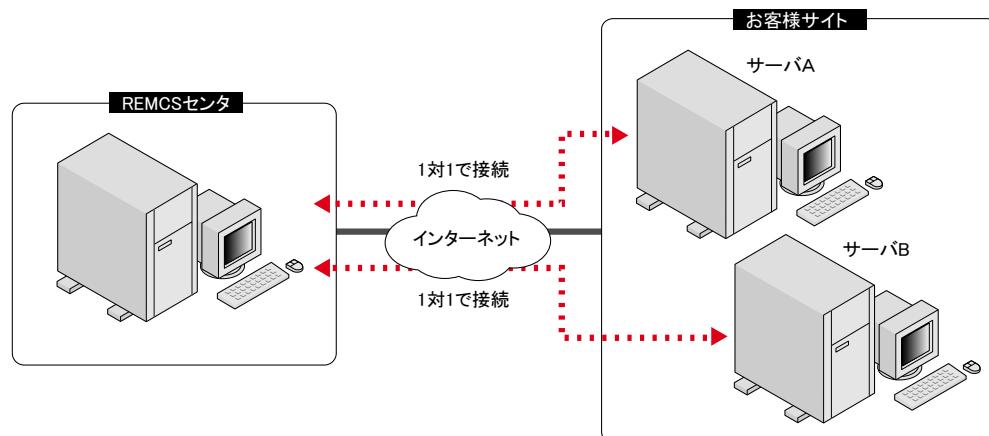
機能名	説明
ファームウェア受信	手動、または自動（定期接続）で、REMCS センタに登録されている最新ファームウェアを受信します。
ファームウェア適用	<p>受信したファームウェアをサーバに適用します。システム環境により、以下のいずれかの適用方法が自動的に選択されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メンテナンス区画適用 電源を入れたあとで、システムディスク上のメンテナンス区画から起動してファームウェアを適用します。有償サポートサービスにより提供される、RSB（リモートサービスボード）とメンテナンス区画があるときに選択されます。 なお、メンテナンス区画の詳細は、『ソフトウェアガイド』を参照してください。 ・ フロッピーディスク適用 REMCS エージェントの「運用操作」メニューで「ファームウェア適用フロッピーディスク」を作成し、作成したディスクから起動してファームウェアを適用します。RSB、メンテナンス区画がないときに選択されます。
REMCS エージェントの保守	REMCS エージェントのアップデートを行います。
構成情報監視	ハードウェアやソフトウェアの構成変更を検出し、最新の構成情報をREMCS センタに送信します。
障害通知	サーバに異常が発生した場合に、REMCS センタに異常を通知とともに、ログやメモリダンプ情報などの障害情報をREMCS センタに送信します。
定期接続	あらかじめ設定した時刻に自動的にREMCS センタに接続し、ファームウェアの受信、構成情報の送信を行います。

1.2 REMCS センタとの接続形態

REMCS センタへの接続形態は、お客様のネットワーク構成やサーバ構成により異なります。接続形態の選択は、「第3章 サービスの開始」(→P.23)で行います。あらかじめ、どの接続形態で利用するかを決めておきます。

1.2.1 インターネット接続

REMCS センタとインターネットを経由して1対1で接続する、標準の接続形態です。通信にはSMTPとHTTPを使用します。



1.2.2 インターネット接続（メール）

「1.2.1 インターネット接続」(→P.10) 同様、REMCS センタと1対1で接続しますが、通信にはSMTPのみ使用します。そのため、ファームウェア受信機能／エージェントの保守機能は使用できません。

1.2.3 管理サーバ接続

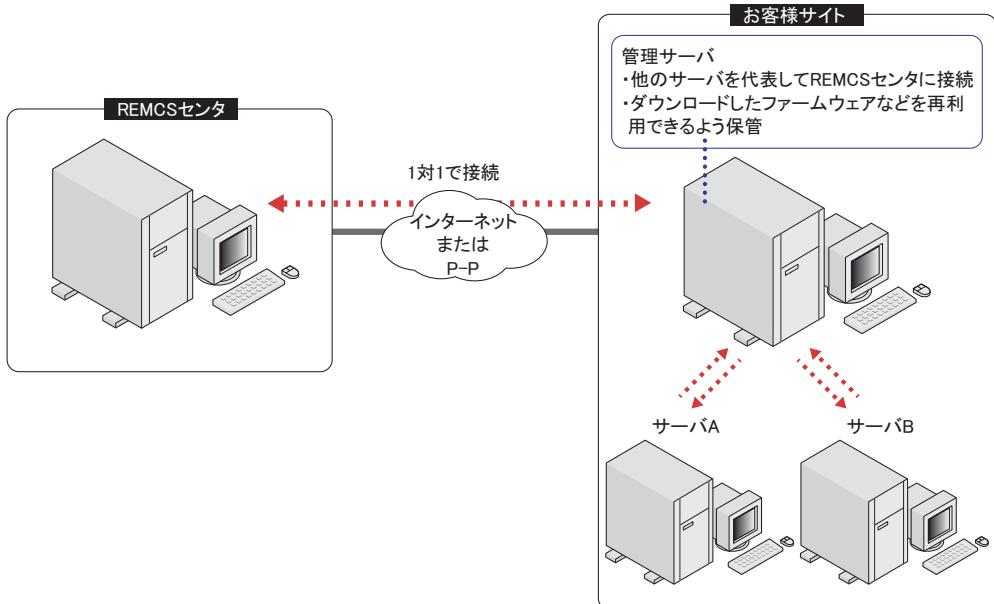
お客様のサーバが複数台あり、複数台のサーバを一括管理するための管理サーバがあるときに、REMCS センタと管理サーバを接続する接続形態です。

管理サーバ接続には次のメリットがあります。

- ・ レジストレーション (REMCS センタへのサーバ登録)、運用操作の負荷を軽減できる
- ・ 複数台分の情報をまとめてREMCS センタに送信するため、通信量を削減できる
- ・ 管理サーバによる拡張サービスを利用できる

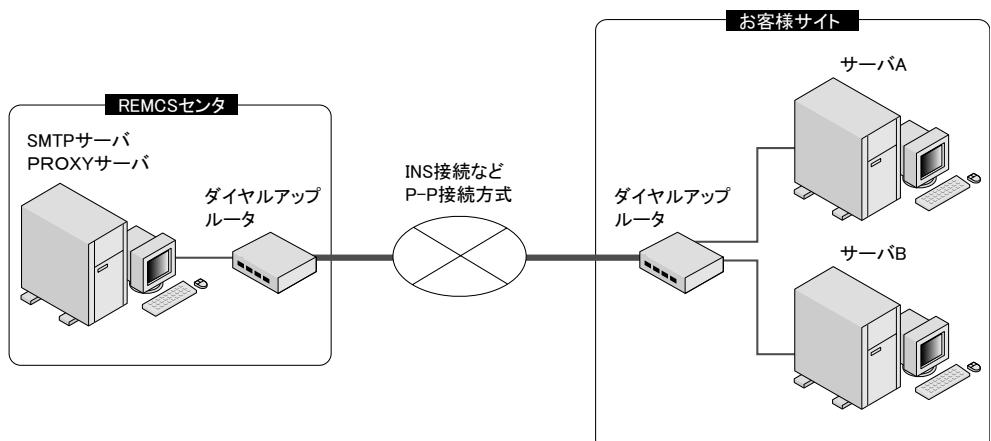
POINT

- ▶ 管理サーバを使用するためには、管理サーバ用のソフトウェア「REMCS Management Server」が別途必要です。



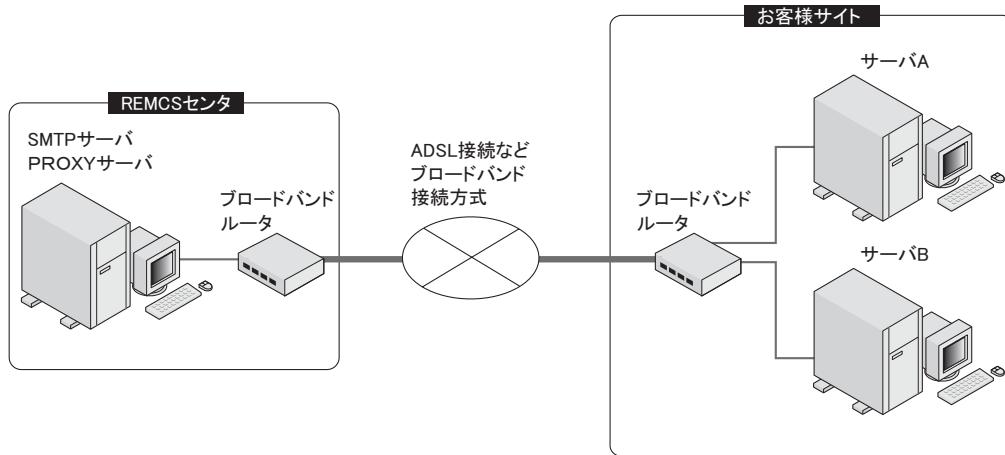
1.2.4 P-P 接続

お客様のサーバと REMCS センタが、INS 回線などを用いたポイント・ツー・ポイント (P-P) 方式で接続する接続形態です。



1.2.5 VPN 接続

お客様のサーバと REMCS センタが、ADSL などのブロードバンドを用いたポイント・ツー・ポイント（P-P）方式で接続する接続形態です。



1.3 必要なシステム

REMCS エージェントを利用するためには必要なシステム要件を説明します。

1.3.1 動作環境

REMCS エージェントは、以下の環境で利用できます。

項目	条件
サーバ本体	REMCS エージェント CD が添付されている PRIMERGY シリーズ
対応 OS	<ul style="list-style-type: none"> • Windows NT Server 4.0 (Service Pack 6a 以上) (Terminal Server Edition は対応していません) • Windows 2000 Server (Service Pack 1 以上) Windows 2000 Advanced Server (Service Pack 1 以上) Windows 2000 Datacenter Server (Service Pack 1 以上) (ターミナルサービスを実行している場合には対応していません)
ハードディスク空き容量	700MB 以上 (内 500MB は作業領域として使用)
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> • ダイアルアップ接続または専用線接続など、インターネット接続環境 • メールサーバ (お客様サイト内)
その他	<ul style="list-style-type: none"> • ユーザアカウントとして、Administrator 権限が必要です。 • ServerView 使用時には、Microsoft Internet Explorer 5 以降がインストールされている必要があります。 • メンテナンス区画から起動してファームウェアを適用する場合は、RSB が必要です。 • 管理サーバ接続を行う場合は、管理サーバ用のサーバ本体と、管理サーバ用のソフトウェア「REMCS Management Server」が必要です。

1.3.2 RSBについて

RSB (リモートサービスボード) は、サーバ本体に搭載するオプションカードです。RSB を搭載すると、以下の機能を使用できます。

- REMCS エージェントのファームウェア自動適用サービスをアシストします。
- サーバに以下の異常が発生したときに、REMCS センタに通知します。
 - ファームウェア自動適用サービス処理監視による異常
 - ServerView の起動監視による異常
 - ServerView、または RSB のウォッチドックタイマによる異常
 - サーバの電源投入抑止による異常

POINT

- ▶ ServerView による各種監視設定は、初期状態では無効になっています。有効にする方法など詳細は、『ServerView ユーザーズガイド』を参照してください。

第2章

サービス開始前の準備

この章では、SNMP サービス、REMCS エージェントのインストール方法を説明しています。

これらのソフトウェアをインストールすることで、REMCS のサポートサービスを開始できるようになります。

2.1 サービス開始までの流れ	16
2.2 SNMP サービスのインストール	18
2.3 REMCS エージェントのインストール	21

2.1 サービス開始までの流れ

各種ソフトウェアをインストールし、サポートサービスを開始するまでの流れについて説明します。

■ 用意するもの

インストール前に、以下のものを用意してください。

- REMCS エージェント CD
- PRIMERGY ドキュメント & ツール CD
- Windows NT、または Windows 2000 の CD-ROM
- Service Pack の CD-ROM

2.1.1 一般サーバの場合

インストールは、次の手順で行います。

1 SNMP サービスをインストールします。

インストール方法については、「2.2 SNMP サービスのインストール」(→ P.18) を参照してください。

2 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」(→ P.21) を参照してください。

3 I/O 装置監視エージェントをインストールします。

サーバに搭載・接続されている I/O 装置 (SCSI カード、SCSI アレイコントローラカード、ハードディスクキャビネットなど) を監視するため、I/O 装置監視エージェントをインストールします。インストール方法、および設定方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「2.8 アレイコントローラのインストール方法」を参照してください。サービス運用中、サーバにオプションの I/O 装置を搭載・接続した場合も、上記の箇所を参照して、I/O 装置監視エージェントのインストールと設定を行ってください。

4 サービスを開始します。

「第 3 章 サービスの開始」(→ P.23) を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、サービスを開始する前に、SMB ドライバを起動してください。詳しくは、「付録 C.2 SMB ドライバの起動」(→ P.131) を参照してください。

2.1.2 ブレードサーバの場合

搭載されているサーバブレードの中から、サーバブレード筐体のハードウェア構成情報や異常監視を行う代表サーバブレードを1枚決定してください。ここでは、代表サーバブレード以外のサーバブレードを一般サーバブレードと呼びます。

REMCS エージェントのインストールは、すべてのサーバブレードに対して行う必要があります。一般サーバブレードでは、「2.1.1 一般サーバの場合」(→ P.16) の手順に従って、インストールを行ってください。代表サーバブレードでは、以下の手順でインストールを行ってください。

1 REMCS エージェントをインストールします。

インストール方法については、「2.3 REMCS エージェントのインストール」(→ P.21) を参照してください。

2 ServerView コンソールをインストールします。

インストール方法については、『ServerView ユーザーズガイド』の「2 インストール」を参照してください。

3 マネージメントブレードのSNMP Trap設定の宛先に、代表サーバブレードのIPアドレスを設定します。

マネージメントブレードの Web UI 等を使用して設定してください。詳しくは、ブレードサーバに添付の『ハードウェアガイドマネジメントブレード編』を参照してください。

4 以下のフォルダに、代表サーバブレード用フィルタファイル(Abevtact)を上書きコピーします。

代表サーバブレード用フィルタファイルは、REMCS エージェント CD の Blade フォルダにあります。

```
%systemdrive%\Program Files\SS-Agent\MpWalker.RM\mpaosfsv\base\etc\MGR50
```

5 システムを再起動します。

6 サービスを開始します。

すべてのサーバブレードに対して、サービス開始操作を行います。

「第3章 サービスの開始」(→ P.23) を参照して、センタへの接続形態に合わせてサービスを開始してください。

2.2 SNMP サービスのインストール

SNMP サービスをインストールする方法を説明します。

2.2.1 Windows NT の場合

1 Service Pack (6a 以上) を適用します。

すでに適用済みの場合は、この操作を行う必要はありません。

POINT

▶ 適用されている Service Pack のバージョンを確認にするには

1. デスクトップ上の [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックします。
2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
3. Service Pack のバージョンを確認します。

例) Service Pack 6a がインストールされている場合

「Microsoft (R) Windows NT(R) Version 4.0 (Build 1381: Service Pack 6)」

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 [ネットワーク] アイコンをダブルクリックします。

「ネットワーク設定」画面が表示されます。

4 [サービス] タブをクリックします。

5 次のいずれかの操作を行います。

- ・ネットワークサービスボックスの中に SNMP サービスがある場合は、すでにインストールされています。[キャンセル] をクリックして、「ネットワーク設定」画面を閉じてください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。以降の操作を行う必要はありません。
- ・ネットワークサービスボックスの中に「SNMP サービス」がない場合は、追加インストールします。以降の操作を行います。

6 [追加] をクリックします。

7 ネットワークサービスボックスの中にある「SNMP サービス」を選択し、[OK] をクリックします。

8 以降、画面の指示に従って SNMP サービスをインストールします。

9 SNMP サービスインストール後、Service Pack を再度適用します。

インストール前にすでに適用済みで、手順 1 の操作を行っていない場合は、事前に適用していた Service Pack と同じバージョンの Service Pack を再度適用してください。

以上で SNMP サービスのインストールは完了です。

重要

- ▶ Service Pack を再インストールしないと、「プロシージャエントリポイン트 SnmpSvcGetEnterpriseOID がダイナミックリンク ライブラリ snmpapi.dll から見つかりません。」というエラーが表示されます。これは、SNMP サービスの一部のファイルが Service Pack によって更新されており、バージョンに不一致が発生するためです。

2.2.2 Windows 2000 の場合

1 Service Pack (1 以上) を適用します。

すでに適用済みの場合は、この操作を行う必要はありません。

POINT

- ▶ 適用されている Service Pack のバージョンを確認にするには

1. デスクトップ上の【マイコンピュータ】アイコンをダブルクリックします。
2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。
3. Service Pack のバージョンを確認します。
例) Service Pack 2 がインストールされている場合
「Microsoft (R) Windows (R) Version 5.0 (Build 2195: Service Pack 2)」

2 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3 [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリックします。

「アプリケーションの追加と削除」画面が表示されます。

4 [Windows コンポーネントの追加と削除] をクリックします。

Windows コンポーネントウィザードが起動します。

5 コンポーネントの一覧表の中から「管理とモニタツール」を選択して、[詳細] をクリックします。

管理とモニタツールの一覧が表示されます。

6 次のいずれかの操作を行います。

- ・コンポーネントの一覧表の中にある「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いている場合は、SNMP サービスがすでにインストールされています。[キャンセル] をクリックして、アプリケーションの追加と削除を終了してください。これで SNMP サービスのインストールは終了です。以降の操作を行う必要はありません。
- ・「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」にチェックが付いていない場合は、SNMP サービスをインストールします。以降の操作を行います。

7 「簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP)」をチェックし、[OK] をクリックします。

8 以降、画面の指示に従って簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) をインストールします。

9 SNMP サービスインストール後、Service Pack を再度適用します。

インストール前にすでに適用済みで、手順1の操作を行っていない場合は、事前に適用

していた Service Pack と同じバージョンの Service Pack を再度適用してください。

以上で SNMP サービスのインストールは完了です。

2.3 REMCS エージェントのインストール

REMCS エージェントをインストールする方法を説明します。

上書きインストール、アップデートインストールについては、「付録 A REMCS エージェントの上書きインストール」(→ P.122) を参照してください。

重要

- ▶ REMCS エージェントをインストールする前に、SNMP サービスをインストールしてください。SNMP サービスをインストールせずに REMCS エージェントをインストールした場合、「SNMP サービスがインストールされていません」というメッセージが表示され、インストールが終了します。
- ▶ ServerView がインストールされていない場合、インストールの途中で ServerView CD-ROM(ドキュメント & ツール CD) が要求されます。

1 REMCS エージェント CD を CD-ROM ドライブにセットします。

自動的にインストーラのサーバ機種選択画面が表示されます。起動しない場合は、CD-ROM の中の「Setup.exe」をダブルクリックしてください。



2 シリーズ名称とモデル名称を選択して、[開始] をクリックします。

RSB と SMB の両方に対応している機種の場合は、RSB 搭載確認画面が表示されます。



3 RSB を搭載している場合は「リモートサービスサポート (RSB)」をチェックし、[次へ] をクリックします。

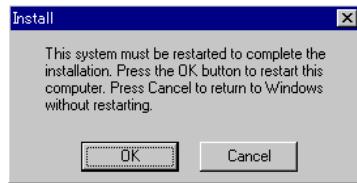
インストール開始確認メッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。

REMCS エージェントのインストールが開始されます。インストールの途中、ServerView CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、サーバに添付の「PRIMERGY ドキュメント & ツール CD」をセットして [OK] をクリックしてください。

●インストール中に次の「Install」メッセージが表示された場合

1. [Cancel] をクリックします。



●インストール中に次の「InstallShield」メッセージが表示された場合

1. [再起動] をクリックします。

自動的にサーバが再起動します。再起動後、自動的に CD-ROM の内容を読み込んでインストールを継続しますので、Administrator 権限を持つユーザーでログオンしてください。なお、インストールが完了するまで CD-ROM は取り出さないでください。



●次の「Set key」メッセージが表示された場合

1. [OK] をクリックします。



●再度、「Install」メッセージが表示された場合

1. [Cancel] をクリックします。

5 残りのインストールが完了したら、サーバを再起動します。

以上で REMCS エージェントのインストールは完了です。

重要

- ▶ REMCS エージェントインストール後に、保守用 CD-ROM 媒体 (GP5-MAINTE) から WASH-ME (旧版) をインストールしないようにしてください。旧版をインストールすると REMCS エージェントが正常に動作しなくなります。REMCS エージェントにより、最新の WASH-ME が提供されます。

第3章

サービスの開始

この章では、サービスを開始する手順について説明しています。センタへの接続形態別にサービスの開始手順が異なります。センタへの接続形態については、「1.2 REMCS センタとの接続形態」(→ P.10) を参照してください。

3.1 インターネット接続の場合	24
3.2 インターネット接続（メール）の場合	33
3.3 管理サーバ接続の場合	42
3.4 P – P 接続の場合	50
3.5 VPN 接続の場合	58
3.6 サービス開始後の設定変更	66
3.7 オンラインアップデート	70
3.8 REMCS センタとの接続停止／再開	74
3.9 構成情報送信	76

3.1 インターネット接続の場合

インターネット接続時のサービス利用登録の手順について説明します。

POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
 - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
 - ・お客様のメールサーバのFQDNまたはIPアドレス
 - ・サーバのIPアドレス
 - ・SMB用のIPアドレス（SMBを取り付ける場合のみ必要）
 - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
 - ・HTTPproxyサーバのFQDNまたはIPアドレス（HTTPproxyサーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・HTTPproxyサーバのアカウント（HTTPproxyサーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・管理サーバのFQDNまたはIPアドレス（管理サーバ接続の場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

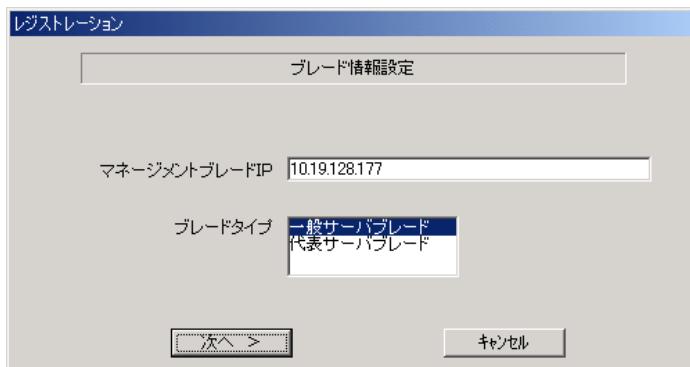
3.1.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

●ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードのIPアドレスを入力します。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。
3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されます。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。**

重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「インターネット接続」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。**
「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。**

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

- 5 お客様情報を入力します。「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。**

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様の情報を FPD 顧客ファイル (*.inf) が保存されているフロッピーディスクから読み取ります。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字まで）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字まで）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字まで）。
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字まで）。

項目	説明
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前（カナ）	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ20文字まで）。
E-Mailアドレス	システム管理者のE-mailアドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号60文字まで）。
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号8文字まで）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号20文字まで）。
FAX番号	FAX番号を入力します（数字記号20文字まで）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号32文字まで。一および#のみ使用可）。 [ヘルプ]をクリックすると、詳細説明が表示されます。

○ 重要

- ▶ E-Mailの設定項目に特殊文字“&”などを使用しないでください。
- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。
- ▶ 第2水準までの文字が使用可能です。
- ▶ 装置ユニーク名に「&、'、<、>、／、_、空白文字」を使用しないでください。

6 [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

7 サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

○ POINT

- ▶ 初期値として、お客様の住所が入力されています。設置場所が同じであれば、変更する必要はありません。
- 「入力情報のご確認」画面が表示されます。

8 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は〔戻る〕をクリックして、修正してください。

○ POINT

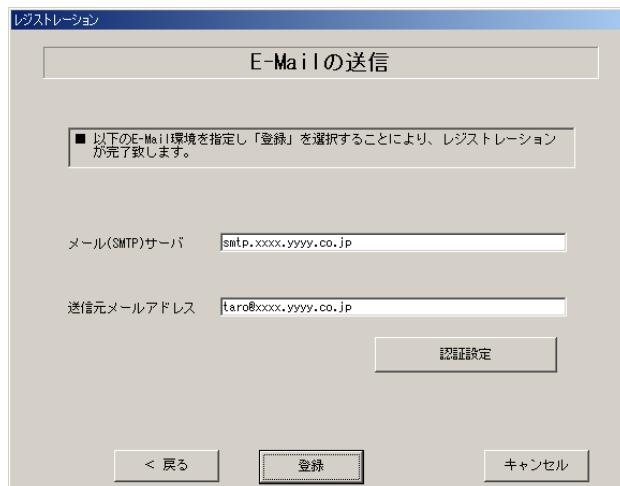
- ▶ [FPD保存]をクリックすると、入力したお客様の情報をフロッピーディスクに保存できます。
保存した情報は、情報の再入力時、他のサーバでのレジストレーション時に利用できます。
- 「E-mail送信環境の確認」画面が表示されます。

9 E-mail送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-mailの送信」画面が表示されます。

10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

メール送信時に認証が必要な場合（POP before SMTP）は、[認証設定] をクリックして、必要な情報を入力してください。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（SMTP）をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。



項目	説明
PoP before SMTP を使用	メール送信時に認証が必要な場合チェックしてください。以下の項目が入力できるようになります。
サーバ名	POP サーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（POP）をご確認ください。
ポート No	POP ポート番号を入力します。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（POP ポート番号）をご確認ください。

項目	説明
ユーザ名	ユーザ名を入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（メール送信時の認証設定）をご確認ください。
パスワード	パスワードを入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（メール送信時の認証設定）をご確認ください。
待ち時間 (msec)	POPサーバから応答が返るまでの待ち時間を設定します。

11 [登録] をクリックします。

入力した情報がREMCSセンタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail送信完了メッセージが表示されます。

POINT

- レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

重要

- レジストレーションの完了を通知するE-mailがお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知のE-mailが届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

3.1.2 環境設定

環境設定の手順について説明します。なお、定期接続やファームウェア適用の設定については、以下の設定例を参考にしてください。

■ 設定例

- 毎週木曜のマシン運用時間中（8:40～17:30）に定期接続を行い、その後の電源再投入時にファームウェア適用（自動処理）を実施する場合

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	週一回
定期接続スケジュール（曜日）	木曜
定期接続スケジュール（時刻）	開始 8:40、終了 17:30
ファームウェア適用	自動適用

※時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

- 毎月 1 日の 18:00 に定期接続を行い、その後の電源再投入時にファームウェア適用（自動処理）を実施する場合

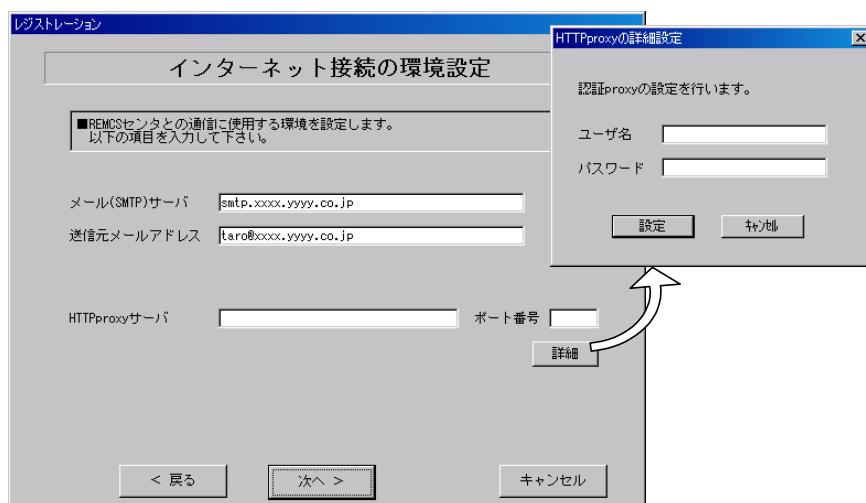
設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	月一回
定期接続スケジュール（曜日）	1
定期接続スケジュール（時刻）	開始 18:00、終了 18:01
ファームウェア適用	自動適用

- 毎日（土日以外）のマシン運用時間中（24 時間運用）に定期接続を行い、手動で適用を指示した後の電源再投入時にファームウェア適用（自動処理）を実施する場合

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	毎日（土日以外）
定期接続スケジュール（曜日）	※設定の必要なし
定期接続スケジュール（時刻）	開始 0:00、終了 23:59
ファームウェア適用	手動適用

※時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。
[次へ] をクリックします。
- 2 インターネット接続の環境設定を行います。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。
HTTPproxy サーバ	お客様の HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。
ポート番号	お客様の HTTPproxy サーバのポート番号を入力します（半角数字）。
ユーザ名	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのユーザ名を入力します。
パスワード	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのパスワードを入力します。

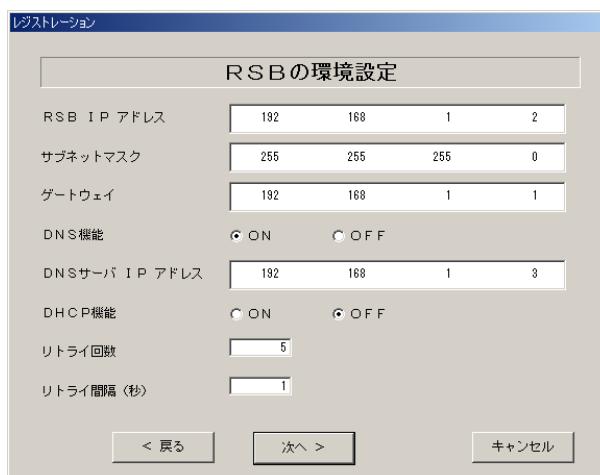
POINT

- ▶ HTTPproxy サーバ、ポート番号は、インターネット接続時に Proxy サーバを使用する必要がある場合のみ入力してください。
- ▶ HTTPproxy ユーザ名、HTTPproxy パスワードは、HTTPproxy サーバにアクセスする際に必要な場合のみ入力してください。

3 [次へ] をクリックします。

RSB が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。



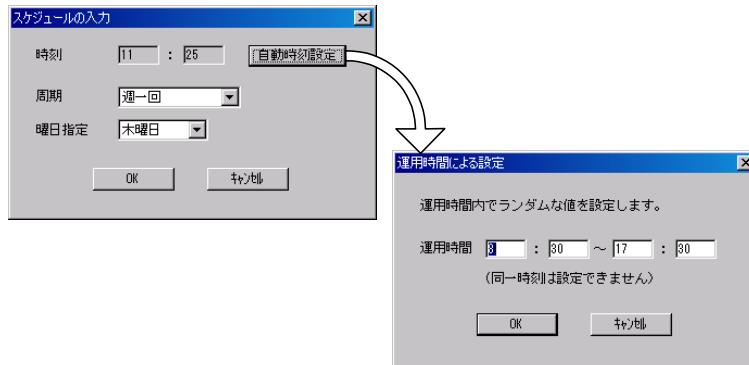
項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。

項目	説明
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 秒)、初期値 1 秒 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。 自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 8** ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。
SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

- 9** [次へ] をクリックします。
「接続確認」画面が表示されます。
- 10** 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。
後ほど、お客様の情報入力画面で入力した（管理者の）E-mail アドレス宛にレジストレーション完了を通知するメールが届きます。
RSB 搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

以上でサービス開始作業は完了です。

POINT

- SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.133）を参照してください。

3.1.3 接続確認

REMCS センタと正常に接続できるかテストします。この機能は、いつでも使用することができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [接続確認] をクリックします。
「接続確認」画面が表示されます。
- 3** [OK] をクリックします。
正常に接続できた場合は、接続正常メッセージが表示されます。

POINT

- トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」（→ P.110）を参照して対処してください。

3.2 インターネット接続（メール）の場合

インターネット接続（メール）時のサービス利用登録の手順について説明します。

POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
 - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
 - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
 - ・サーバの IP アドレス
 - ・SMB 用の IP アドレス（SMB を取り付ける場合のみ必要）
 - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
 - ・HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレス（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・HTTPproxy サーバのアカウント（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・管理サーバの FQDN または IP アドレス（管理サーバ接続の場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

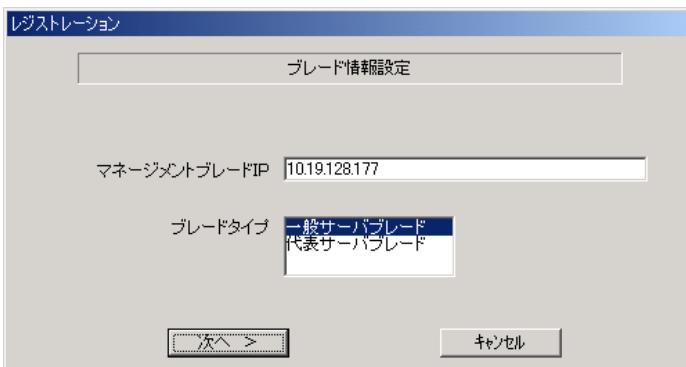
3.2.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報をお登録します。

- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

● ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスを入力します。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。
3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されます。

- 2** サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。

重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3** 「インターネット接続（メールのみ）」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。
「レジストレーション」画面が表示されます。
- 4** [次へ] をクリックします。
「お客様情報の入力」画面が表示されます。
- 5** お客様情報を入力します。「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様の情報を FPD 顧客ファイル (*.inf) が保存されているフロッピーディスクから読み取ります。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字まで）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字まで）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字まで）。

項目	説明
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字まで）。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角 20 文字まで）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角 20 文字まで）。
管理者のお名前（カナ）	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ 20 文字まで）。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、障害発生通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号 60 文字まで）。
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号 8 文字まで）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号 20 文字まで）。
FAX 番号	FAX 番号を入力します（数字記号 20 文字まで）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号 32 文字まで。-および#のみ使用可）。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

重要

- ▶ E-Mail の設定項目に特殊文字 “&” などを使用しないでください。
- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。
- ▶ 第 2 水準までの文字が使用可能です。
- ▶ 装置ユニーク名に「&、”、'、<、>、／、_、空白文字」を使用しないでください。

6 [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

7 サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ 初期値として、お客様の住所が入力されています。設置場所が同じであれば、変更する必要はありません。

「入力情報のご確認」画面が表示されます。

8 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

POINT

- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様の情報をフロッピーディスクに保存できます。保存した情報は、情報の再入力時、他のサーバでのレジストレーション時に利用できます。

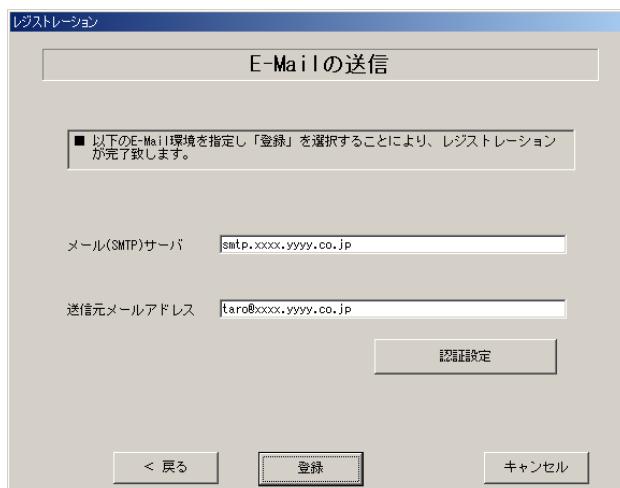
「E-mail 送信環境の確認」画面が表示されます。

9 E-mail 送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-mail の送信」画面が表示されます。

10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。

メール送信時に認証が必要な場合（POP before SMTP）は、[認証設定] をクリックして、必要な情報を入力してください。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（SMTP）をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。



項目	説明
PoP before SMTP を使用	メール送信時に認証が必要な場合チェックしてください。以下の項目が入力できるようになります。
サーバ名	POP サーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（POP）をご確認ください。
ポート No	POP ポート番号を入力します。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（POP ポート番号）をご確認ください。

項目	説明
ユーザ名	ユーザ名を入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（メール送信時の認証設定）をご確認ください。
パスワード	パスワードを入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値（メール送信時の認証設定）をご確認ください。
待ち時間（msec）	POPサーバから応答が返るまでの待ち時間を設定します。

11 [登録] をクリックします。

入力した情報がREMCSセンタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail送信完了メッセージが表示されます。

POINT

- レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

重要

- レジストレーションの完了を通知するE-mailがお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知のE-mailが届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

3.2.2 環境設定

環境設定の手順について説明します。なお、定期接続やファームウェア適用の設定については、以下の設定例を参考にしてください。

■ 設定例

● 毎週木曜のマシン運用時間中（8:40～17:30）に定期接続を行う場合

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	週一回
定期接続スケジュール（曜日）	木曜
定期接続スケジュール（時刻）	開始 8:40、終了 17:30

※時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

● 每月1日の18:00に定期接続を行う場合

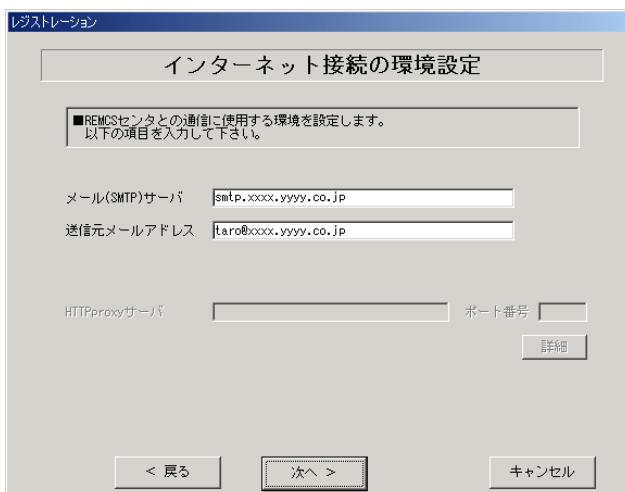
設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	月一回
定期接続スケジュール（曜日）	1
定期接続スケジュール（時刻）	開始 18:00、終了 18:01

● 毎日（土日以外）のマシン運用時間中（24時間運用）に定期接続を行う場合

設定項目	設定値
定期接続スケジュール（周期）	毎日（土日以外）
定期接続スケジュール（曜日）	※設定の必要なし
定期接続スケジュール（時刻）	開始 0:00、終了 23:59

※時刻は指定範囲の間から、自動的に接続時刻を設定します。

- 1 レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。
[次へ] をクリックします。
- 2 インターネット接続の環境設定を行います。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。

- 3 [次へ] をクリックします。
- RSB が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

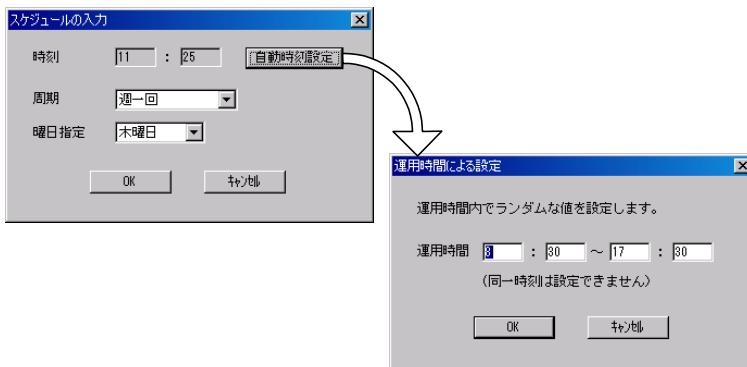


項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するため RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲：0 ~ 10（単位：回）、初期値 5 回（推奨）
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲：0 ~ 60（単位：秒）、初期値 1 秒（推奨）

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。 自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

8 「ファーム適用スケジュールの設定」画面が表示されますが、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。**9 [次へ] をクリックします。**

「接続確認」画面が表示されます。

10 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。

後ほど、お客様の情報入力画面で入力した（管理者の）E-mail アドレス宛にレジストレーション完了を通知するメールが届きます。

RSB 搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

以上でサービス開始作業は完了です。

 **POINT**

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.133）を参照してください。

3.2.3 接続確認

REMCS センタと正常に接続できるかテストします。この機能は、いつでも使用することができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**2 [接続確認] をクリックします。**

「接続確認」画面が表示されます。

3 [OK] をクリックします。

正常に接続できた場合は、接続正常メッセージが表示されます。

 **POINT**

- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を参照して対処してください。

3

サービスの開始

3.3 管理サーバ接続の場合

管理サーバ接続時のサービス利用登録の手順について説明します。

POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
 - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
 - ・お客様のメールサーバのFQDNまたはIPアドレス
 - ・サーバのIPアドレス
 - ・SMB用のIPアドレス（SMBを取り付ける場合のみ必要）
 - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
 - ・HTTPproxyサーバのFQDNまたはIPアドレス（HTTPproxyサーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・HTTPproxyサーバのアカウント（HTTPproxyサーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・管理サーバのFQDNまたはIPアドレス（管理サーバ接続の場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

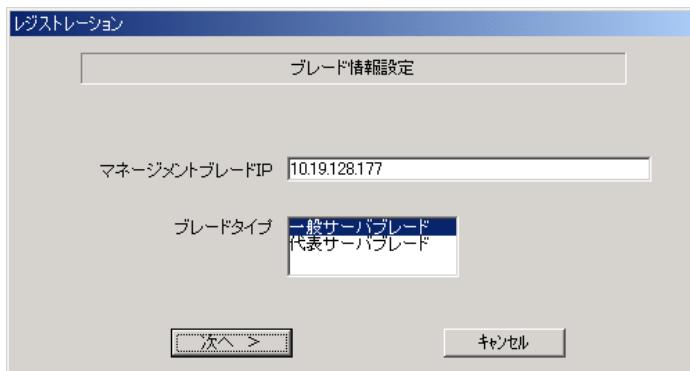
3.3.1 環境設定

環境設定の手順について説明します。なお、定期接続やファームウェア適用の設定については、「■ 設定例」（→ P.28）を参考にしてください。

1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

● ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードのIPアドレスを入力します。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。
3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されます。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力します。入力したら、[OK] をクリックします。**

重要

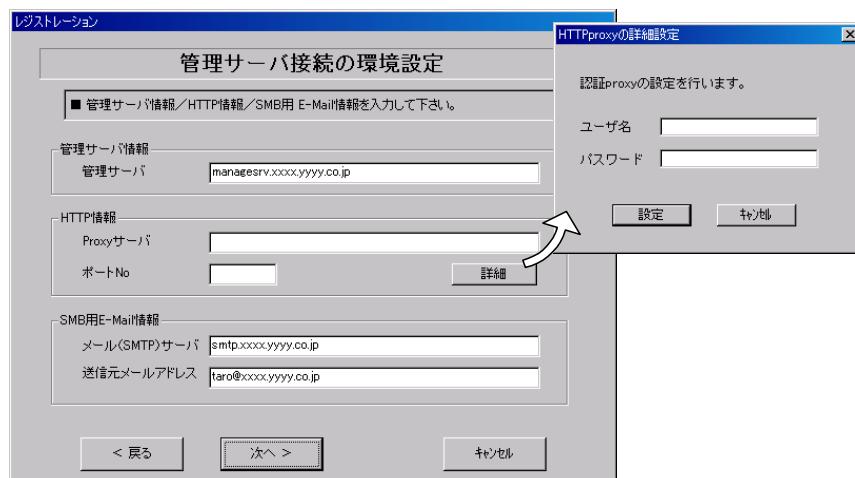
- ▶ チェックコード、製造番号はサーバ1台ごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「管理サーバ接続」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。**
「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。**
「管理サーバ接続の環境設定」画面が表示されます。

- 5 管理サーバ接続の環境設定を行います。**



項目	説明
管理サーバ	お客様の管理サーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。必ず、入力してください。
メール (SMTP) サーバ	入力した情報をセンタにメール送信するために、メールサーバの FQDN または IP アドレスを入力します（半角英数記号）。SMB または RSB を搭載している場合のみ、入力してください。通常、お客様がご利用になっているメール送受信ソフトで設定値 (SMTP) をご確認ください。
送信元メールアドレス	センタへの送信元メールアドレスを入力します（半角英数記号）。SMB または RSB を搭載している場合のみ、入力してください。このアドレスは、サーバからセンタに送付されるメールの送信者アドレスになります。社外発信資格が必要です。

項目	説明
Proxy サーバ	お客様の HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレスを入力します(半角英数記号)。
ポート No	お客様の HTTPproxy サーバのポート番号を入力します(半角数字)。
ユーザ名	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのユーザ名を入力します。
パスワード	お客様の HTTPproxy サーバにログオンするためのパスワードを入力します。

POINT

- ▶ HTTP情報のProxyサーバ、ポートNoは、HTTPproxyサーバが社内に設置されている場合にのみ入力してください。
- ▶ Proxy認証のユーザ名、パスワードは、Proxyサーバにアクセスする際に必要な場合のみ入力してください。

重要

- ▶ E-Mail の設定項目に特殊文字 “&” などを使用しないでください。

6 [次へ] をクリックします。

RSB が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

7 項目を入力します。



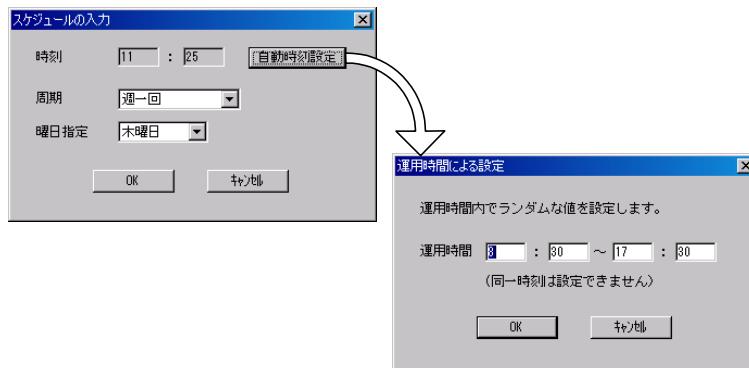
項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するために RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。

項目	説明
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 秒)、初期値 1 秒 (推奨)

8 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

9 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。 自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日 : 毎日、定期接続を行います。 毎日 (日曜以外) : 日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日 (土日以外) : 土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回 : 週一回、指定の曜日に定期接続を行います (推奨)。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回 : 月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

10 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

- 11** ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。
SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

- 12** [次へ] をクリックします。
「管理サーバ登録」画面が表示されます。
- 13** [登録] をクリックします。
管理サーバへの登録が完了すると、管理サーバの登録完了メッセージが表示されます。
- 14** 引き続きレジストレーションを行う場合は、[はい] をクリックします。
管理サーバから一括して複数台のサーバのレジストレーションを行う場合は、[いいえ] をクリックします。
管理サーバからの一括レジストレーションについては、管理サーバ用のソフトウェアに添付のマニュアルを参照してください。

以上で環境設定は完了です。

POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」(→ P.133) を参照してください。

3.3.2 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

- 1** 管理サーバの登録完了メッセージで、[はい] をクリックします。
「レジストレーション」画面が表示されます。
- 2** [次へ] をクリックします。
「お客様情報の入力」画面が表示されます。

3 お客様情報を入力します。

管理サーバから自動的に情報を取得して、値が入力されています。必要な項目のみ変更してください。

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様の情報を FPD 顧客ファイル (*.inf) が保存されているフロッピーディスクから読み取ります。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字まで）。
法人名 (カナ)	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字まで）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字まで）。
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字まで）。
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角 20 文字まで）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角 20 文字まで）。
管理者のお名前 (カナ)	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ 20 文字まで）。
E-Mail アドレス	システム管理者の E-mail アドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、障害発生通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号 60 文字まで）。
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号 8 文字まで）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号 20 文字まで）。
FAX 番号	FAX 番号を入力します（数字記号 20 文字まで）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号 32 文字まで。- および # のみ使用可）。 [ヘルプ] をクリックすると、詳細説明が表示されます。

⚡ 重要

- ▶ E-Mail の設定項目に特殊文字 “&” などを使用しないでください。
- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。
- ▶ 第2水準までの文字が使用可能です。
- ▶ 装置ユニーク名に「&、'、<、>、／、_、空白文字」を使用しないでください。

4 [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

5 サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ 初期値として、お客様の住所が入力されています。設置場所が同じであれば、変更する必要はありません。
- ▶ 「入力情報のご確認」画面が表示されます。

6 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

POINT

- ▶ [FPD 保存] をクリックすると、入力したお客様の情報をフロッピーディスクに保存できます。
保存した情報は、情報の再入力時、他のサーバでのレジストレーション時に利用できます。
- ▶ 「接続確認」画面が表示されます。

7 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。

後ほど、お客様の情報入力画面で入力した（管理者の）E-mail アドレス宛にレジストレーション完了を通知するメールが届きます。
RSB 搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックして
テストメールを送信してください。

以上でサービス開始作業は完了です。

POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.133）を参照してください。

3.3.3 接続確認

REMCS センタと正常に接続できるかテストします。この機能は、いつでも使用することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [接続確認] をクリックします。**
「接続確認」画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。**
正常に接続できた場合は、接続正常メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を参照して対処してください。

3.4 P – P 接続の場合

P – P 接続時のサービス利用登録の手順について説明します。

POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
 - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
 - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
 - ・サーバの IP アドレス
 - ・SMB 用の IP アドレス（SMB を取り付ける場合のみ必要）
 - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
 - ・HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレス（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・HTTPproxy サーバのアカウント（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・管理サーバの FQDN または IP アドレス（管理サーバ接続の場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

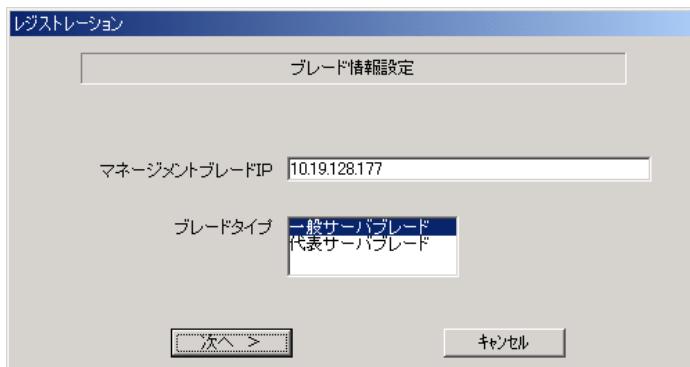
3.4.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

- 1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

● ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスを入力します。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。
3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されます。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。**

重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「P-P 接続 (ISDN)」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。**
「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。**

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

- 5 お客様情報を入力します。「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。**

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様の情報を FPD 顧客ファイル (*.inf) が保存されているフロッピーディスクから読み取ります。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字まで）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字まで）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字まで）。
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字まで）。

項目	説明
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前（カナ）	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ20文字まで）。
E-Mailアドレス	システム管理者のE-mailアドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、障害発生通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号60文字まで）。
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号8文字まで）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号20文字まで）。
FAX番号	FAX番号を入力します（数字記号20文字まで）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号32文字まで。一および#のみ使用可）。 [ヘルプ]をクリックすると、詳細説明が表示されます。

◆ 重要

- ▶ E-Mailの設定項目に特殊文字“&”などを使用しないでください。
- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。
- ▶ 第2水準までの文字が使用可能です。
- ▶ 装置ユニーク名に「&、'、<、>、／、_、空白文字」を使用しないでください。

6 [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

7 サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ 初期値として、お客様の住所が入力されています。設置場所が同じであれば、変更する必要はありません。
- 「入力情報のご確認」画面が表示されます。

8 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

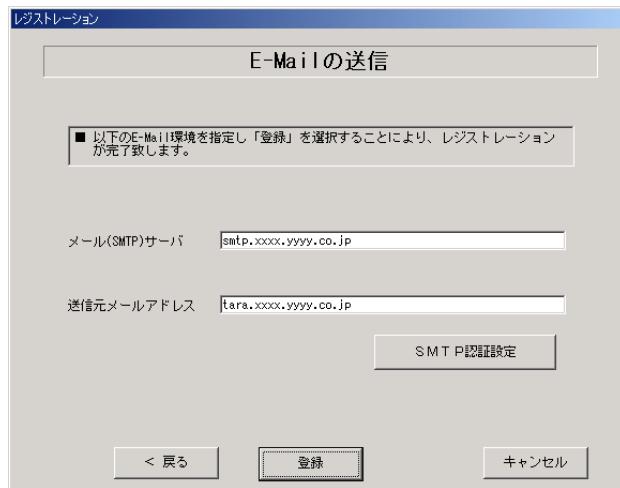
POINT

- ▶ [FPD保存]をクリックすると、入力したお客様の情報をフロッピーディスクに保存できます。
保存した情報は、情報の再入力時、他のサーバでのレジストレーション時に利用できます。
- 「E-mail送信環境の確認」画面が表示されます。

9 E-mail送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-mailの送信」画面が表示されます。

10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。

11 [登録] をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

POINT

- レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

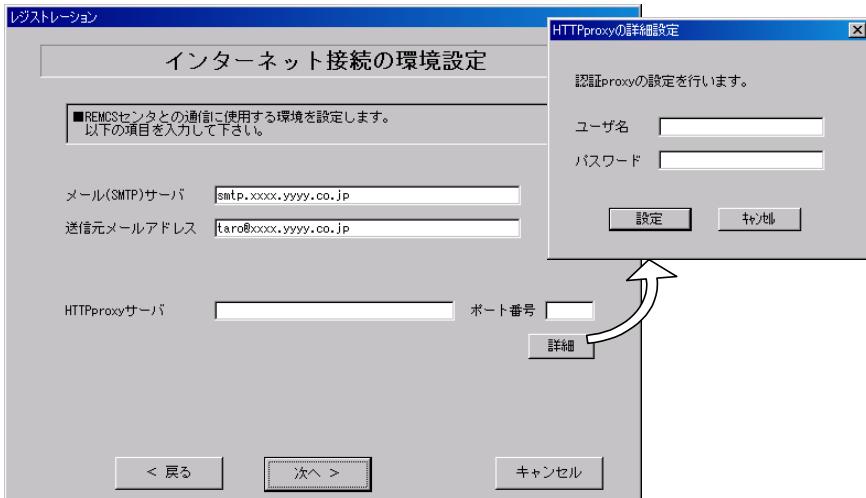
重要

- レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

3.4.2 環境設定

- 1** レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。
[次へ] をクリックします。
- 2** P – P 接続の環境設定を行います。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
HTTPproxy サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ポート番号	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ユーザ名	設定不要です。
パスワード	設定不要です。

- 3** [次へ] をクリックします。

RSB が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

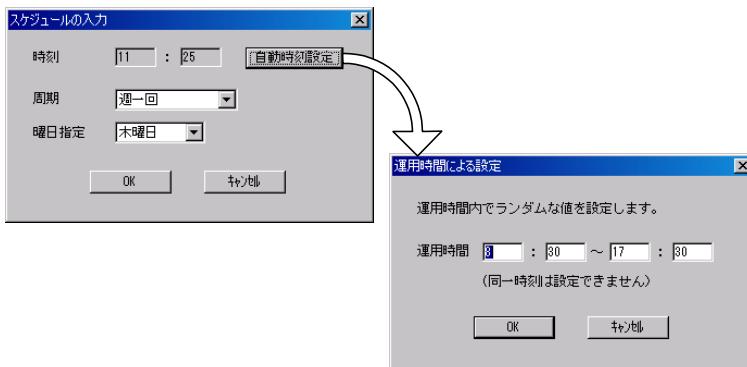


項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するため RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 秒)、初期値 1 秒 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。 自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

8 ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。

SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

10 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。

後ほど、お客様の情報入力画面で入力した（管理者の）E-mail アドレス宛にレジストレーション完了を通知するメールが届きます。

RSB 搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

以上でサービス開始作業は完了です。

POINT

- SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.133）を参照してください。

3.4.3 接続確認

REMCS センタと正常に接続できるかテストします。この機能は、いつでも使用することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [接続確認] をクリックします。**
「接続確認」画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。**
正常に接続できた場合は、接続正常メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を参照して対処してください。

3.5 VPN 接続の場合

VPN 接続時のサービス利用登録の手順について説明します。

POINT

- ▶ サービス開始前に、次のものをご用意ください。
 - ・保証書（型名、チェックコード、製造番号が記載されているもの）
- ▶ 以下のネットワーク関連情報を確認してください。
 - ・お客様のメールサーバの FQDN または IP アドレス
 - ・サーバの IP アドレス
 - ・SMB 用の IP アドレス（SMB を取り付ける場合のみ必要）
 - ・送信元メールアドレス（社外発信資格が必要）
 - ・HTTPproxy サーバの FQDN または IP アドレス（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・HTTPproxy サーバのアカウント（HTTPproxy サーバのドメインを有する場合に必要）
 - ・管理サーバの FQDN または IP アドレス（管理サーバ接続の場合に必要）
- ▶ ブレードサーバの場合、サービス開始操作は、すべてのサーバブレードに対して行ってください。

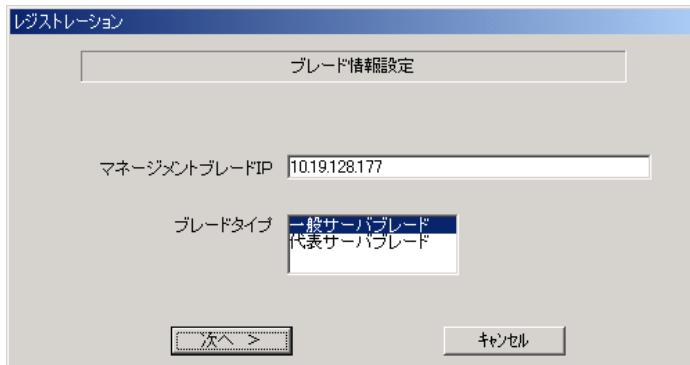
3.5.1 レジストレーション

REMCS センタにお客様のサーバ情報を登録します。

1 [レジストレーション] アイコンをダブルクリックします。

● ブレードサーバの場合

以下の画面が表示されます。



1. マネジメントブレードの IP アドレスを入力します。
2. サービス開始を行うブレードタイプを選択します。
3. [次へ] をクリックします。

構成情報の収集が始まります。

装置識別情報がハードウェアに書き込まれていないモデルでは、「装置識別情報の登録」画面が表示されます。

- 2 サーバ添付の保証書に記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力し、[OK] をクリックします。**

重要

- ▶ チェックコード、製造番号はサーバごとに値が異なります。必ず、入力しているサーバに添付されていた保証書に記載されている番号を入力してください。
- ▶ 型名を入力してもモデルが自動的に表示されない場合、ハードウェアに装置識別情報が正しく書き込まれていない可能性があります。弊社サポート要員にご連絡ください。
- ▶ 保証書をなくした場合は、装置のラベルに記載されている型名、チェックコード、製造番号を入力してください。装置ラベルにチェックコードのないモデルは、お客様登録センタのご相談窓口へご相談ください。

構成情報の収集終了後、「接続形態選択」画面が表示されます。

- 3 「P – P 接続 (VPN)」にチェックを付けて、[次へ] をクリックします。**
「レジストレーション」画面が表示されます。

- 4 [次へ] をクリックします。**

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

- 5 お客様情報を入力します。「ご登録の種別」は「新規登録」を選択してください。**

レジストレーション

お客様情報の入力

■ 下記の項目をご入力下さい。 ※のついている項目は必須入力項目です。
半角カナでは、使用しないで下さい。

ご登録の種別	<input checked="" type="radio"/> 新規登録 <input type="radio"/> 更新 <input type="button" value="FPD参照..."/>
法人名	※ 富士通株式会社 (全角)
法人名(カナ)	※ フジシウカブシキガイシャ (全角カタカナ)
部署名	※ 開発部 (全角)
ご住所	※ 神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番1- (全角)
ビル名	本館 (全角)
管理者のお名前	※ 富士通太郎 (全角)
管理者のお名前(カナ)	※ フジシウタロウ (全角カタカナ)
E-Mail アドレス	※ faro@xxxx.yyyyy.co.jp (英数記号)
郵便番号	211-8588 (数字記号) 例. 012-3456
電話番号	※ 012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789
FAX番号	012-345-6789 (数字記号) 例. 012-345-6789
装置ユニーク名	PRIMERGY-Server ヘルプ (英数記号)

< 戻る 次へ > キャンセル

項目	説明
ご登録の種別	新規：センタにお客様の情報を新規に登録します。 更新：センタにすでに登録されているお客様の情報を更新します。新規登録を行っていない場合は選択できません。
FPD 参照	お客様の情報を FPD 顧客ファイル (*.inf) が保存されているフロッピーディスクから読み取ります。
法人名	法人名を入力します（全角 30 文字まで）。
法人名（カナ）	法人名のフリガナを入力します（全角カナ 40 文字まで）。
部署名	お客様の部署名を入力します（全角 20 文字まで）。
ご住所	お客様のご住所を入力します（全角 30 文字まで）。

項目	説明
ビル名	必要な場合はビル名を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前	システム管理者のお名前を入力します（全角20文字まで）。
管理者のお名前（カナ）	システム管理者のお名前のフリガナを入力します（全角カナ20文字まで）。
E-Mailアドレス	システム管理者のE-mailアドレスを入力します。このアドレス宛に、登録通知、障害発生通知、最新ファームウェア登録通知などのメールが送られます（英数記号60文字まで）。
郵便番号	郵便番号を入力します（数字記号8文字まで）。
電話番号	電話番号を入力します（数字記号20文字まで）。
FAX番号	FAX番号を入力します（数字記号20文字まで）。
装置ユニーク名	お客様と弊社サービス員との間でサーバを特定するための名前を入力します（英数記号32文字まで。一および#のみ使用可）。 [ヘルプ]をクリックすると、詳細説明が表示されます。

◆ 重要

- ▶ E-Mailの設定項目に特殊文字“&”などを使用しないでください。
- ▶ 旧漢字、外字は認識できない場合があります。
- ▶ 第2水準までの文字が使用可能です。
- ▶ 装置ユニーク名に「&、'、<、>、／、_、空白文字」を使用しないでください。

6 [次へ] をクリックします。

「設置場所の入力」画面が表示されます。

7 サーバの設置場所を入力し、[次へ] をクリックします。

POINT

- ▶ 初期値として、お客様の住所が入力されています。設置場所が同じであれば、変更する必要はありません。
- 「入力情報のご確認」画面が表示されます。

8 情報に誤りがないか確認し、[次へ] をクリックします。

誤りがある場合は [戻る] をクリックして、修正してください。

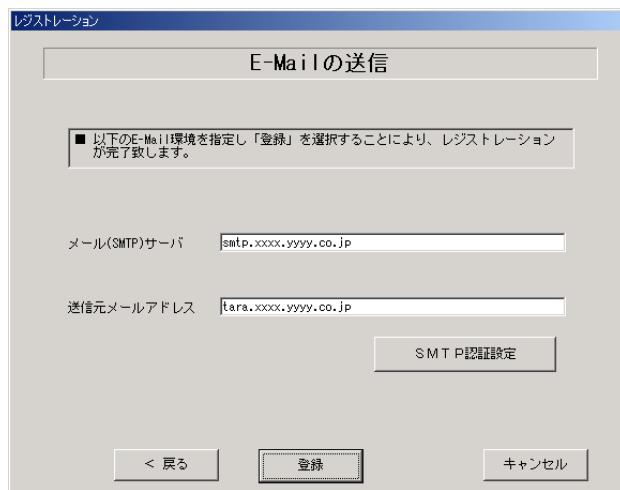
POINT

- ▶ [FPD保存] をクリックすると、入力したお客様の情報をフロッピーディスクに保存できます。
保存した情報は、情報の再入力時、他のサーバでのレジストレーション時に利用できます。
- 「E-mail送信環境の確認」画面が表示されます。

9 E-mail送信が可能な環境かどうかを確認し、[次へ] をクリックします。

「E-mailの送信」画面が表示されます。

10 E-mail の送信に必要な情報を入力します。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。

11 [登録] をクリックします。

入力した情報が REMCS センタに自動送付されます。メールの転送が完了すると、E-mail 送信完了メッセージが表示されます。

POINT

- レジストレーション完了時に、お客様が入力した情報と一緒に、構成情報も自動的にセンタに送信されます。

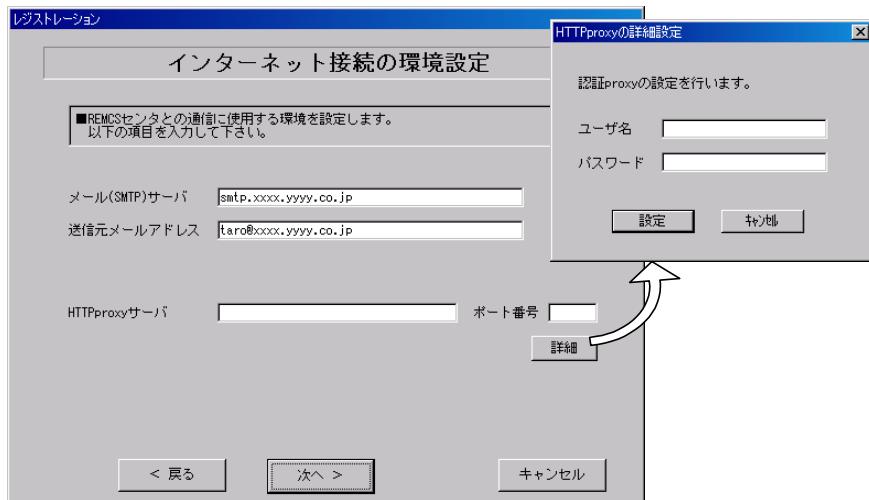
重要

- レジストレーションの完了を通知する E-mail がお客様に届く前に、ユーザ登録情報の更新処理を行っても無効として扱われます。レジストレーションの後すぐに更新処理を実施したい場合は、完了通知の E-mail が届いた後に行ってください。

以上でレジストレーションは完了です。次に、環境設定を行います。

3.5.2 環境設定

- 1** レジストレーション完了後、「REMCS 環境の設定」画面が表示されます。
[次へ] をクリックします。
- 2** P-P 接続の環境設定を行います。



項目	説明
メール (SMTP) サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
送信元メールアドレス	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
HTTPproxy サーバ	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ポート番号	弊社から通知する値を設定してください。必ず、入力してください。
ユーザ名	設定不要です。
パスワード	設定不要です。

- 3** [次へ] をクリックします。

RSB が搭載されている場合、「RSB の環境設定」画面が表示されます。

4 項目を入力します。

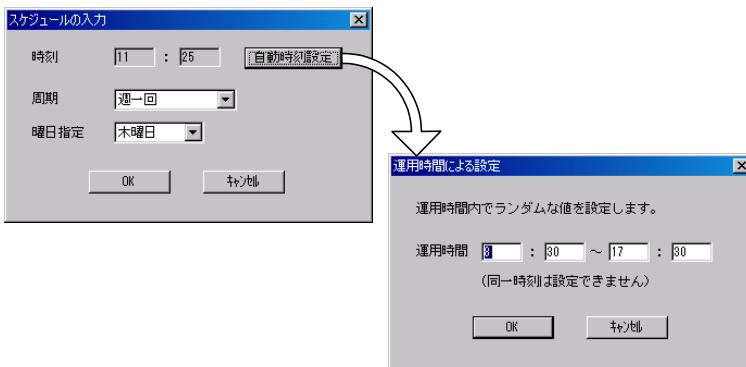


項目	説明
RSB IP アドレス	RSB リモート制御機能を使用するため RSB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクアドレスを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
DNS 機能	DNS サーバを利用する場合には ON をチェックします。
DNS サーバ IP アドレス	DNS サーバの IP アドレスを指定します。
DHCP 機能	DHCP サーバを利用して RSB の IP アドレスを取得する場合には ON をチェックします。
リトライ回数	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ回数を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 10 (単位 : 回)、初期値 5 回 (推奨)
リトライ間隔	RSB が E-mail で異常通知を行う際のリトライ間隔を指定します。 有効範囲 : 0 ~ 60 (単位 : 秒)、初期値 1 秒 (推奨)

5 [次へ] をクリックします。

「定期接続スケジュールの設定」画面が表示されます。

6 定期接続のスケジュール設定を行います。[入力] をクリックし、スケジュールを入力します。



項目	説明
時刻	定期接続を行う時刻を設定します。お客様の運用時間の範囲内で設定してください。 自動時刻設定の入力範囲は 0:00 ~ 23:59 です。0 時をまたいでの設定はできませんのでご注意ください。また、開始時刻と終了時刻に同じ時刻を設定することはできません。
周期	毎日：毎日、定期接続を行います。 毎日（日曜以外）：日曜以外の毎日、定期接続を行います。 毎日（土日以外）：土日以外の毎日、定期接続を行います。 週一回：週一回、指定の曜日に定期接続を行います（推奨）。 「日付／曜日を指定」で曜日を指定してください。 月一回：月一回、指定の日付に定期接続を行います。 「日付／曜日を指定」で日付を指定してください。

7 [OK] をクリックします。

定期接続スケジュールの設定画面に戻りますので、現在の設定に正しく反映されているかどうかを確認してください。問題がなければ、[次へ] をクリックします。

8 ファーム修正適用のスケジュールを設定します。手動適用／自動適用のいずれかを指定できます。[変更] をクリックして、適用方法を設定します。

SMB を搭載していない場合、ファーム適用機能は使用できませんので、そのまま [次へ] をクリックして先にお進みください。

項目	説明
手動適用（初期値）	お客様が適用指示を出したときに適用処理を行います。
自動適用	最新ファームウェアをセンタからダウンロードした後、電源を入れ直したときに適用処理を行います。

9 [次へ] をクリックします。

「接続確認」画面が表示されます。

10 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。

後ほど、お客様の情報入力画面で入力した（管理者の）E-mail アドレス宛にレジストレーション完了を通知するメールが届きます。

RSB 搭載時には、設定確認のためテストメールを送信できます。[OK] をクリックしてテストメールを送信してください。

以上でサービス開始作業は完了です。

POINT

- ▶ SMB を搭載している場合は、引き続き SMB の設定を行います。SMB の設定については、「付録 C.3 サービス開始時の設定」（→ P.133）を参照してください。

3.5.3 接続確認

REMCS センタと正常に接続できるかテストします。この機能は、いつでも使用することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [接続確認] をクリックします。**
「接続確認」画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。**
正常に接続できた場合は、接続正常メッセージが表示されます。

POINT

- ▶ トラブル発生時は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を参照して対処してください。

3.6 サービス開始後の設定変更

サービス開始後に、設定内容を変更する方法について説明します。

3.6.1 レジストレーションの変更

レジストレーション時に登録した情報を更新します。

■ インターネット接続、インターネット接続（メール）、P－P接続の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [レジストレーション] をクリックします。
「接続形態選択」画面が表示されます。
- 3 [次へ] をクリックします。
「レジストレーション」画面が表示されます。
- 4 [次へ] をクリックします。
「お客様情報の入力」画面が表示されます。
- 5 「ご登録の種別」は「更新」を選択し、変更の必要な情報を修正します。
- 6 [次へ] をクリックします。
「設置場所の入力」画面が表示されます。
- 7 以降、「3.1 インターネット接続の場合」(→ P.24) ~ 「3.5 VPN 接続の場合」(→ P.58) を参考に、接続確認まで操作してください。
情報の更新の完了は、後ほどセンタから管理者宛に E-mail で通知されます。

POINT

- ▶ 続けてセンタ接続形態の変更、環境設定の変更も行うことができます。

■ 管理サーバ接続の場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [レジストレーション] をクリックします。
「接続形態選択」画面が表示されます。
- 3 管理サーバ登録画面が表示されるまで、[次へ] をクリックします。

- 4** [登録] をクリックします。
管理サーバへの登録が完了すると、「管理サーバの登録完了」画面が表示されます。
- 5** [はい] をクリックします。
「レジストレーション」画面が表示されます。
- 6** [次へ] をクリックします。
「お客様情報の入力」画面が表示されます。
- 7** 「ご登録の種別」は「更新」を選択し、変更の必要な情報を修正します。
- 8** [次へ] をクリックします。
「設置場所の入力」画面が表示されます。
- 9** 変更の必要な情報を修正し、[次へ] をクリックします。
「入力情報の確認」画面が表示されます。
- 10** 情報に誤りがなければ、[次へ] をクリックします。
誤りがある場合は、[戻る] をクリックして、誤りを訂正してください。
- 11** 接続確認を行います。[接続確認] をクリックします。
後ほど、「お客様情報の入力」画面で入力した管理者の E-mail アドレス宛に、レジストレーション完了を通知するメールが届きます。

POINT

- ▶ 続けてセンタ接続形態の変更、環境設定の変更も行うことができます。

3.6.2 環境設定の変更

接続形態にかかわらず、操作は共通です。インターネット接続（メール）の場合は、一部変更できない項目があります。

■ 定期接続時刻の変更

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [環境設定] をクリックします。
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3** [サービス] タブをクリックします。
- 4** [設定] をクリックします。
「定期接続設定スケジュール」画面が表示されます。
- 5** スケジュールを変更し、[OK] をクリックします。
次回接続時間が表示されます。

- 6 [OK] をクリックします。**
「REMCS 環境設定」画面に戻ります。
- 7 [OK] をクリックします。**
設定確認メッセージが表示されます。
- 8 [OK] をクリックします。**
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

■ HTTP 設定の変更

インターネット接続（メール）の場合は、この項目は変更できません。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [環境設定] をクリックします。**
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [HTTP] タブをクリックします。**
- 4 HTTP 情報を変更し、[OK] をクリックします。**
設定確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。**
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか「接続確認」を実施して確認してください。

■ E-mail 設定の変更

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [環境設定] をクリックします。**
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3 [E-mail] タブをクリックします。**
- 4 E-mail 環境の設定を変更し、[OK] をクリックします。**
設定確認メッセージが表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。**
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか「接続確認」を実施して確認してください。

■ RSB 設定の変更

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [環境設定] をクリックします。
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3** [RSB] タブをクリックし、RSB の設定を変更します。
- 4** RSB の環境設定を確認するため、[テストメール送信] をクリックします。
送信に成功した場合は、「テストメールの送信が正常に終了しました。」というメッセージが表示されます。
- 5** [OK] をクリックします。
設定確認メッセージが表示されます。
- 6** [OK] をクリックします。
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

■ 管理サーバ設定の変更

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [環境設定] をクリックします。
「REMCS 環境設定」画面が表示されます。
- 3** [管理サーバ] タブをクリックします。
- 4** 管理サーバの設定を変更し、[OK] をクリックします。
設定確認メッセージが表示されます。
- 5** [OK] をクリックします。
設定に成功した場合は、正常終了メッセージが表示されます。
REMCS センタと正常に接続できるか確認してください。

3.7 オンラインアップデート

最新ファームウェアと REMCS エージェントのアップデータをダウンロードし、適用する方法について説明します。

3.7.1 ファームウェアのアップデート

REMCS センタから、本体、内蔵オプション、外付オプションの最新ファームウェアをダウンロードして、装置に適用します。通常、定期接続時に自動的に最新ファームウェアがダウンロードされますが、必要に応じて手動でダウンロードすることもできます。ダウンロードしたファームウェアは、サーバの電源再投入時に自動的に適用したり、フロッピーディスクから適用したりすることができます。ファームウェア適用後、自動的に新しい構成情報がセンタに転送されます。

■ ファームウェアを自動ダウンロードする

最新ファームウェアを定期接続時に自動的にダウンロードします。初期設定は、自動ダウンロードに設定されています。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [ファーム管理] をクリックします。
「ファーム管理」画面が表示されます。
- 3 [ファーム運用設定] をクリックします。
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。
- 4 [有効] をクリックします。
手動でダウンロードするように設定したい場合は、[無効] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

■ ファームウェアを手動ダウンロードする

最新ファームウェアを手動でダウンロードします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [ファーム管理] をクリックします。
「ファーム管理」画面が表示されます。
- 3 [ファーム手動受信処理] をクリックします。
「ファームウェア手動受信処理」画面が表示されます。

- 4** [OK] をクリックします。
ダウンロードが開始されます。

POINT

▶ 「最新世代のファームがありません。」というメッセージが表示された場合は、REMCS センタに最新のファームウェアは登録されていませんので、ファーム受信と適用は不要です。

■ ファームウェアを適用する

ダウンロードしたファームウェアを、サーバの電源再投入時に自動的に適用、または手動で適用できます。

POINT

▶ この機能を使用するためには、RSB（または SMB）とメンテナンス区画が必要です。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。

- 2** [ファーム管理] をクリックします。
「ファーム管理」画面が表示されます。

- 3** [ファーム運用設定] をクリックします。
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。

- 4** 適用処理を行います。

● 自動適用の場合

1. [自動適用] をクリックします。
2. [スケジュール設定] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。

以降、サーバの電源再投入時に、未適用のファームウェアがあれば、自動的に適用処理が行われます。

● 手動適用の場合

1. [手動適用] をクリックします。
2. [スケジュール設定] をクリックします。
3. [OK] をクリックします。
4. サーバをシャットダウンして電源を切断します。
5. サーバの電源を再投入します。

ファームウェア適用ツールが起動して、ファームウェアを適用します。
適用後、自動的に Windows が起動します。

☞ 重要

- ▶ 自動適用の場合、ファームウェア適用時は、ファームウェアの適用ツールの都合上、適用中に複数回サーバを再起動することがあります。1回の再起動で1種類の装置のみ適用されます。
- ▶ 手動適用の場合、ファームウェア適用後、適用スケジュールは自動的にスケジュールキャンセル状態に戻ります。
- ▶ 適用スケジュールが「次回電源投入時、ファーム適用します」（スケジュール設定状態）になっている場合には、REMCS エージェントをアンインストールしないでください。
- ▶ ファームウェア適用後に、ファームウェア受信、スケジュール設定／キャンセル操作を行う場合は、OS 起動後10分経過してから実施してください。

■ 適用フロッピーディスクを使って適用する

適用フロッピーディスクを使って、ファームウェアを適用します。

POINT

- ▶ RSB（またはSMB）、メンテナンス区画がないときに、適用フロッピーディスクを使用します。
- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
 - 2** [ファーム管理] をクリックします。
「ファーム管理」画面が表示されます。
 - 3** [ファーム運用設定] をクリックします。
「ファームウェア運用設定」画面が表示されます。
 - 4** フォーマット済みの未使用的フロッピーディスクをセットします。
 - 5** 「受信ファームウェア一覧」で適用したいファームウェアアーカイブ名を選択して、[適用フロッピー作成] をクリックします。
適用フロッピーディスクが作成されます。
ファームウェアの説明ファイルがある場合は、説明内容が表示されます。
 - 6** 適用フロッピーディスクをセットしたまま、サーバを再起動します。
再起動後、自動的にファームウェア適用処理が行われます。
 - 7** 適用処理完了後、適用フロッピーディスクを取り出し、サーバの電源を切ります。
 - 8** サーバの電源を入れます。

3.7.2 REMCS エージェントのアップデート

REMCS センタから REMCS エージェントのアップデータをダウンロードして装置に適用します。必要に応じて手動でダウンロードして適用します。

■ アップデータをダウンロードする

REMCS エージェントのアップデータを手動でダウンロードします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [REMCS 保守] をクリックします。**
「REMCS 保守」画面が表示されます。
- 3 [REMCS ダウンロード] をクリックします。**
ダウンロードが開始されます。
ダウンロードが完了すると、ダウンロード状況一覧の状況がすべて「ダウンロード済み」になります。

■ アップデータを適用する

ダウンロード済の REMCS エージェントのアップデータを適用します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [REMCS 保守] をクリックします。**
「REMCS 保守」画面が表示されます。
- 3 [REMCS アップデート] をクリックします。**
アップデート確認メッセージが表示されます。
- 4 [インストール開始] をクリックしてください。**
アップデートが始まります。アップデートが完了すると、アップデート完了メッセージが表示されます。
- 5 [OK] または [いまでぐ再起動する] をクリックします。**
再起動が必要な場合は、システムを再起動しないと有効になりませんのでご注意ください。
- 6 適用後、運用操作メニューの [構成情報] をクリックして、最新の情報をセンタに送信します。**

3.8 REMCS センタとの接続停止／再開

サーバと REMCS センタの接続を停止します。

☞ 重要

- ▶ サーバを長時間停止する場合（たとえば、年末年始など）や、システムのメンテナンス（メールサーバやネットワークのメンテナンスを含む）を実施する場合など、定期接続ができないときにREMCS センタとの接続を停止してください。
- ▶ REMCS センタとの接続を停止した後、システムの運用を再開した時には、必ず「センタ接続再開」を行ってください。

3.8.1 REMCS センタとの接続を停止する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を停止します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [センタ接続停止] をクリックします。
確認画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。
運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続停止中」になります。

☞ 重要

- ▶ センタ接続停止中は、REMCS センタとの接続処理を一切行いません。また、[センタ接続再開] と [センタ接続停止] 以外は選択できなくなります。

3.8.2 REMCS センタとの接続を再開する

REMCS センタとの接続（リモートサポートサービス）を再開します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [センタ接続再開] をクリックします。
確認画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。
運用操作メニューのセンタ接続ステータスが「センタ接続中」になります。

 **重要**

- ▶ 停止していた間のイベントは、REMCS センタに通知されません。

3

サービスの開始

3.9 構成情報送信

サーバおよびサーバに搭載・接続されているハードウェアと、サーバにインストールされているソフトウェアの構成情報を REMCS センタに送信します。

POINT

- ▶ 構成情報は、定期接続時に自動的に送信されます。この操作は、定期接続時間前に構成情報を送る必要がある場合に使用します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [構成情報] をクリックします。
「構成情報」画面が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。
REMCS センタに、新しい構成情報が送信されます。
正常に送信できた場合は、正常完了メッセージが表示されます。

第4章

障害発生時の対応

4

装置に異常が発生したり、ネットワーク環境でトラブルが発生したりした場合は、内容に応じて保守作業を行います。

この章では、障害発生時の対処方法について説明します。

4.1 障害発生について	78
4.2 保守作業の開始／終了	81
4.3 ソフトウェア調査資料の収集	82
4.4 調査資料の管理	88
4.5 SIRMS の環境設定	91

4.1 障害について

装置に異常が発生した場合、センタに異常を通知します。センタで通知を受け取った後、サポート要員がただちに対応を開始します。

また、接続確認の実施でエラーが発生した場合は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を使用して、原因究明・調査資料の収集を行ってください。

4.1.1 通知される主な障害

通知される主な障害は、以下の表のようなものがあります。サーバの機種や装置の機種によって、項目／通知障害の種類は変わります。

■ サーバ本体

項目	通知障害
システムファン プロセッサファン	<ul style="list-style-type: none"> ファンが故障したとき（ファン停止） ファンユニットが筐体から取り外されたとき（ファン除去） ファンの回転数が低下したとき（ファン回転数異常）
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> プロセッサが故障したとき（プロセッサ異常） 複数プロセッサで動作しているサーバで、プロセッサが故障したため、自動的に故障プロセッサをシステムから切り離して動作するとき（故障プロセッサ縮退） その他
メモリ	<ul style="list-style-type: none"> メモリが故障したとき（Single-Bit-Error、Multi-Bit-Error） 複数枚のメモリを搭載しているサーバで、メモリが故障したため、自動的に故障メモリをシステムから切り離して動作するとき（故障メモリ縮退）
プロセッサ温度 筐体内温度 外気温（室内温度）	・ 温度が上限／下限のしきい値を超えてしまったとき（上限しきい値エラー、下限しきい値エラー）
プロセッサ電圧 ベースボード電圧 メモリ電圧	・ 電圧が上限／下限のしきい値を超えてしまったとき（上限しきい値エラー、下限しきい値エラー）
電源ユニット	<ul style="list-style-type: none"> 電源ユニットが故障したとき（電源ユニット異常） 電源ユニット内にあるファンが故障したとき（ファン異常）
NVRAM	・ エラーログを格納する領域が満杯になりそうなとき（ログエリアフル）
筐体	・ 筐体カバーがサーバから取り外されたとき（筐体カバーオープン）
IMP	<ul style="list-style-type: none"> IMP が故障したとき（IMP 異常） その他
その他	<ul style="list-style-type: none"> OS がハングアップ・異常終了したとき（サーバダウン） ブートのタイムアウト異常が発生したとき（サーバダウン） その他

■ I/O 装置

項目	通知障害
オンボード SCSI コントローラ SCSI カード	<ul style="list-style-type: none"> コントローラに異常が発生して動作しなくなったとき（コントローラ異常） 接続デバイスが故障したとき（接続デバイス異常） 接続されているハードディスクに故障の兆しが見え始めたとき（S.M.A.R.T エラー） SCSI バス上でエラーが発生したとき（SCSI バスエラー） その他
SCSI アレイコントローラカード IDE アレイコントローラカード	<ul style="list-style-type: none"> ハードディスクが故障したとき（ハードディスク異常） サーバが動作しているときにハードディスクを取り外したとき（ハードディスク異常） RAID のリビルド中にエラーが発生したとき（RAID リビルドエラー） RAID の一貫性チェック中にエラーが発生したとき（一貫性チェックエラー） RAID カード上に搭載されているバッテリーの残量が少なくなったとき（バッテリーエラー） その他
IDE コントローラ	<ul style="list-style-type: none"> 接続されているハードディスクに故障の兆しが見え始めたとき（S.M.A.R.T エラー）
ハードディスクキャビネット	<ul style="list-style-type: none"> キャビネット内の温度が上限しきい値を超えてしまったとき（温度異常） キャビネットに搭載されているファンが故障したとき（ファン異常） キャビネットに搭載されている電源ユニットが故障したとき（電源ユニット異常） キャビネットに搭載されている電源ユニット内のファンが故障したとき（電源ユニット異常）
バックアップキャビネット	<ul style="list-style-type: none"> キャビネットに搭載されている電源ユニットが故障したとき（電源ユニット異常） キャビネットに搭載されている電源ユニット内のファンが故障したとき（電源ユニット異常）
SMB RSB	<ul style="list-style-type: none"> SMB が故障して動作しなくなったとき（ハードウェアエラー） 内部論理でエラーが発生したとき（内部論理エラー） セットアップ異常が発生したとき（セットアップエラー） その他

4.1.2 サーバに表示されるメッセージ

サーバに表示されるメッセージは、インストールした Servervisor のバージョンにより異なります。メッセージ内容の詳細については、Servervisor のマニュアルやヘルプをご覧ください。

■ Servervisor V1.0 をご使用の場合

メッセージ (F3GE Message Box)	対象
Source= Local Response Agent EventID= 11 Event Type= xxxx Component Name= Intel Corporation,Baseboard Group= xxxx Severity= Critical, Non-Critical, Information Instance= x System= OtherSubSystem= Other	電圧、温度、ファン、プロセッサ、メモリ、筐体、電源ユニット、その他のサーバ本体で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。
Source= FSC EventID= 100xx Description= xxxx	
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 アラート = xxxx コンポネント名 = xxxxxxxx 重要度 = 危険、警告、情報	オンボード SCSI コントローラ、SCSI カード、SCSI アレイコントローラカード、IDE コントローラ、ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネット、SMB などの I/O 装置で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。

■ Servervisor V1.1 以降をご使用の場合

メッセージ (FUJITSU Eventlog Agent)	対象
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 ベースボード監視機能 メッセージ : xxxx で異常を検出しました 重要度 : 危険、警告 センサ番号 : x	電圧、温度、ファン、プロセッサ、メモリ、筐体、電源ユニット、IMP、その他のサーバ本体で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。
Source= Alert Definition Originator EventID= 3 xxxxxxxx 監視機能 メッセージ : xxxx で異常を検出しました 重要度 : 危険、警告	オンボード SCSI コントローラ、SCSI カード、SCSI アレイコントローラカード、IDE コントローラ、ハードディスクキャビネット、バックアップキャビネット、SMB などの I/O 装置で障害が発生した場合に表示されるメッセージです。

4.2 保守作業の開始／終了

保守作業を行う場合は、センタに保守作業中であることを通知し、「保守作業中」状態にします。

重要

- ▶ 「保守作業中」状態のときは、センタへの障害の通知を抑止します。

4.2.1 保守作業開始の通知

保守作業を開始することをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [保守作業開始] をクリックします。
- 3 確認ダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。
運用操作メニューの保守作業ステータスが「保守作業中」になります。

4.2.2 保守作業終了の通知

保守作業を終了したことをセンタに通知し、「保守作業中」状態にします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [保守作業終了] をクリックします。
- 3 確認ダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。
運用操作メニューの保守作業ステータスが「運用中」になります。

POINT

- ▶ 保守作業によって構成情報に変更があった場合は、自動的に新しい構成情報がセンタに転送されます。

4.3 ソフトウェア調査資料の収集

ソフトウェアの障害発生時には、ソフトウェアの詳細な調査資料をセンタに送信する必要があります。

以下の操作を行って、サーバにインストールされているソフトウェアの調査情報を収集してください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。**
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3 [資料収集] をクリックします。**
「SIRMS 資料収集」画面が表示されます。



POINT

- ▶ 「ヘルプ」メニューのバージョン情報により、ソフトウェア調査資料の収集をはじめる前に、SIRMS のバージョンを確認してください。バージョン 1.x.x の場合は操作が異なります。「付録 B ソフトウェア調査資料の収集と送信 (SIRMS バージョン 1 の場合)」を参照してください。

4 調査資料を収集します。

調査資料の収集方法には、次の 2 つの方法があります。

● ファイル名直接指定

調査資料ファイルのフルパス名を直接指定して、調査資料を収集します。

調査資料を収集しようとする製品名が製品名一覧に表示されていない場合や、SIRMS では自動的に収集されない調査資料を個別に収集する場合に選択します。

→「4.3.1 製品名一覧から資料を収集する」(P.83)

● 製品名一覧から選択

製品名の一覧から対象となる製品名を選択して、その製品についての調査情報を収集します。

→「4.3.2 ファイル名を指定して資料を収集する」(P.85)

4.3.1 製品名一覧から資料を収集する

- 1** 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2** [製品名一覧から選択] をチェックします。
一覧表内の製品名を選択できるようになります。
- 3** 製品名を選択して [OK] をクリックします。
手順 1 で入力したインシデント No. に対応した、「インシデント番号確認」画面が表示されます。インシデント No. を入力していなかった場合は、仮インシデント番号 (Sxxxx) が採番され、「仮インシデント番号確認」画面が表示されますので、[OK] をクリックしてください。
- 4** インシデント番号を確認し、[OK] をクリックします。
調査資料グループ選択画面が表示されます。



POINT

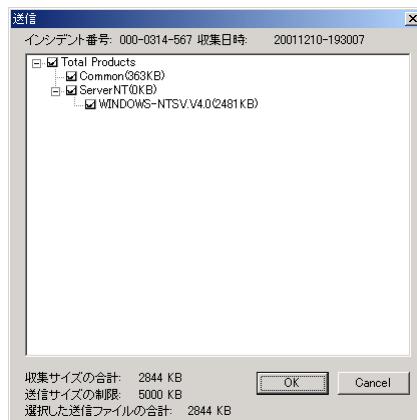
- ▶ 調査資料グループとは、収集する調査資料を、障害の現象ごと、または複数の関連する調査資料ごとにグループ化して、調査資料の収集を容易にするためのものです。[ファイル名直接指定] をクリックすることにより、指定した調査資料グループに加えて、ファイル名を直接指定して収集することもできます。
- 5** 資料を収集したい調査資料グループにチェックを付けて、[OK] をクリックします。
収集開始確認メッセージが表示されます。
 - 6** [OK] をクリックします。
収集作業を開始します。
 - 7** 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが 2M バイト以下のときのみ表示されます。2M バイトを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

☞ 重要

- ▶ ファイルサイズが2Mバイトを超える調査資料、またはサイズの合計が5Mバイトを超える調査資料については、DATなどの外部記憶装置に保存してください。調査資料を他の媒体に保存するには、管理メニュー画面で【内容表示】ボタンをクリックし、表示されるエクスプローラで操作してください。
- 保存した媒体はセンタに郵送するか、調査資料をE-mailの添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。

8 [OK] をクリックすると、送信内容確認画面が表示されます。

チェックされている資料が送信されます。送信しない資料はチェックをはずします。



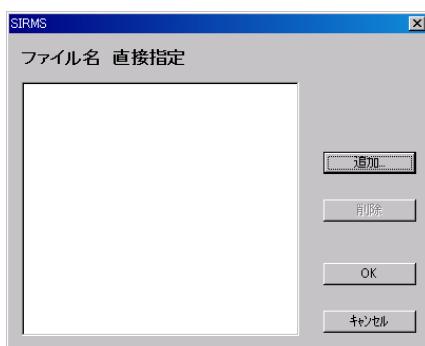
9 [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。

送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。

収集した資料の保存場所については、「4.3.3 調査資料の保存場所」(→ P.86)をご覧ください。

4.3.2 ファイル名を指定して資料を収集する

- 1** 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2** [ファイル名直接指定] をチェックします。
- 3** [OK] をクリックします。
「ファイル名直接指定」画面が表示されます。



- 4** [追加] をクリックします。
ファイル選択ダイアログが表示されます。
- 5** ファイルを選択して、[OK] をクリックします。
収集開始確認メッセージが表示されます。
- 6** 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが2MB以下のときのみ表示されます。2MBを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

重要

- ▶ ファイルサイズが2Mバイトを超える調査資料、またはサイズの合計が5Mバイトを超える調査資料については、DATなどの外部記憶装置に保存してください。調査資料を他の媒体に保存するには、管理メニュー画面で [内容表示] ボタンをクリックし、表示されるエクスプローラで操作してください。
保存した媒体はセンタに郵送するか、調査資料をE-mailの添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。

7 [OK] をクリックすると、送信内容確認画面が表示されます。

チェックされている資料が送信されます。送信しない資料はチェックをはずします。

**8 [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。**

送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。

4.3.3 調査資料の保存場所

収集した調査資料は、REMCS エージェントの保存域に格納されます。調査資料の保存域は、以下のような、すべてのユーザに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。

- Windows NT の場合
< Windows ディレクトリ > ¥Profiles¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea2
- Windows 2000 の場合
<システムドライブ> :¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea2

POINT

- ▶ Windows NT から、Windows 2000 にアップグレードインストールした場合、保存域の場所は Windows NT と同じになります。

調査資料の収集が終わると、保存域内に SIRMS が生成する収集番号 (Sxxxx) と収集日時を組み合わせた名前を持つディレクトリが作成され、このディレクトリに収集した製品ごとにサブディレクトリが作成され、収集した調査資料が、圧縮されて保存されます。

調査資料保存ディレクトリ名：収集番号 _YYYYMMDD-hhmmss

YYYY：西暦 4 桁表示

MM：月 (00 ~ 12)

DD：日 (00 ~ 31)

hh：時 (00 ~ 23)

mm：分 (00 ~ 59)

ss：秒 (00 ~ 59)

(例) : S0001_20010314-140000

各インシデント番号に対応する調査資料は、管理メニュー画面から〔内容表示〕をクリックすることによりエクスプローラで表示されます。



■ ファイルサイズが、30M バイトを超えるもの

ファイルサイズが、30M バイトを超える調査資料ファイルについては、収集した調査資料ファイルを保存域に格納する代わりに、そのファイルのフルパス名が書き込まれたテキストファイル（LINK ファイル）が格納されています。

LINK ファイルの形式

ファイル名：

収集番号.調査資料のタイプ.順序番号.txt

記録形式：

テキストファイルの 4 行目に、“調査資料ファイルのフルパス名”

■ 調査資料のタイプ

REMCS エージェントでは、調査資料ファイルを、緊急度（障害調査ですぐに必要かどうか）に応じて 3 つのタイプに分類しています。また、ファイルサイズが大きな資料も 1 タイプとして分類され、全部で以下の 4 つのタイプがあります。

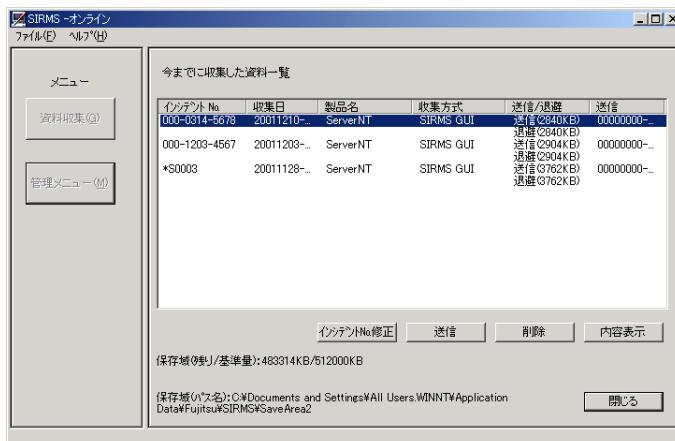
調査資料のタイプ	意味	保存場所	センタ送信の可否	圧縮されるか
URGENT	緊急度の高い資料	保存域	ファイルサイズ 2MB 以下、合計 5MB 以下なら送信可	圧縮される
EXPRESS	調査に必須な一次資料	保存域	ファイルサイズ 2MB 以下、合計 5MB 以下なら送信可	圧縮される
STANDARD	調査に必須な二次資料	保存域	不可	圧縮される
HUGE	30M バイト以上の調査資料	調査資料ファイルの元の場所	不可	圧縮されない

4.4 調査資料の管理

収集済みの調査資料を送信したり、削除するなど、調査資料の管理を行います。以下の操作が行えます。

- ・調査資料の送信
- ・調査資料の削除
- ・調査資料の内容表示
- ・インシデント No. 修正

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。**
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。**
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3 [管理メニュー] をクリックします。**
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。



項目	説明
インシデント No.	資料のインシデント No. です。 先頭にアスタリスク (*) が付加されている No. は、SIRMS が採番した仮インシデント番号です。
収集日	資料を収集した日付です。
製品名	製品名資料の製品名です。
収集方式	SIRMS GUI と表示されます。
送信／退避	送信した資料のファイルのサイズと、ハードディスク上に保存（退避）したファイルのサイズを表示します。送信サイズよりも退避サイズが大きい場合は、DAT などでバックアップして、センタに送付しなければならない調査資料があることを示しています。
送信	資料をセンタに送付した日時を表示します。まだセンタに送信していない資料は空白になっています。

■ 調査資料の送信

収集済みのソフトウェア調査資料を REMCS センタに送信します。この操作で送付できるのは、ファイルサイズが 2M バイト以下、合計で 5M バイト以下の調査資料のみです。

重要

- ▶ ファイルサイズが 2M バイトを超える調査資料、またはサイズの合計が 5M バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存してください。調査資料を他の媒体に保存するには、管理メニュー画面で [内容表示] ボタンをクリックし、表示されるエクスプローラで操作してください。
- 保存した媒体はセンタに郵送するか、調査資料を E-mail の添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。

1 資料一覧から、送信したい資料を選択して、[送信] をクリックします。

先頭にアスタリスク (*) が付加されている仮インシデント番号の場合は、インシデント番号入力画面が表示されます。サポート要員から提示されたインシデント番号を入力し、[OK] をクリックしてください。

2 資料ファイルがセンタに送信可能なサイズ（2M バイト以下）の場合、センタ送信確認メッセージと送信内容確認画面が表示されます。

3 [OK] をクリックします。

選択した資料がセンタに送信されます。

送信作業が完了すると、送信完了メッセージが表示されます。

■ 調査資料の削除

収集したソフトウェア調査資料を削除します。

1 資料一覧から、削除したい資料を選択して、[削除] をクリックします。

選択した資料ファイルが削除されます。

■ 調査資料の内容表示

収集したソフトウェア調査資料が格納されているディレクトリをエクスプローラで表示します。他の媒体に保存するときなどに使用します。

1 資料一覧から、内容表示したい資料を選択して、[内容表示] をクリックします。

エクスプローラの画面が起動し、選択した資料ファイルが格納されているディレクトリが表示されます。



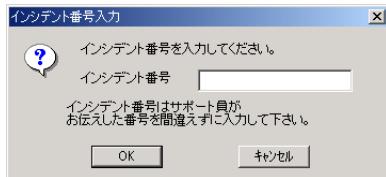
2 他の媒体に保存する場合は、コピーするなどの作業を行います。

■ 調査資料のインシデント番号修正

収集したソフトウェア調査資料のインシデント番号を変更します。「*S0003」のように先頭にアスタリスク (*) が付加されているのは、SIRMS が採番した仮インシデント番号です。仮インシデント番号を、サポート要員から提示された正式なインシデント番号に変更するときに使用します。

- 1 インシデント番号を変更したい資料を選択し、[インシデント No. 修正] をクリックします。

インシデント番号入力画面が表示されます。



- 2 サポート要員から提示されたインシデント番号を入力して、[OK] をクリックします。

インシデント番号が変更されます。

4.5 SIRMS の環境設定

調査資料収集における各ファイルサイズや、ファイルの保存先などを変更します。通常は、この設定を変更する必要はありません。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [調査資料・送付] をクリックします。
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3** [ファイル] メニューから [ユーザの設定] を選択します。
「ユーザの設定」画面が表示されます。
- 4** 各タブ画面で必要な値を設定してください。
値を設定後、[適用] をクリックします。
- 5** すべてのタブ画面で設定を終了後、[OK] をクリックします。
[省略値の設定] をクリックすると、すべての値が省略値に設定されます。

■「調査資料収集」タブ

● 各種のファイルサイズ

- 圧縮するファイルサイズの最大値 [MB] (10240KB ~、省略値 = 30720KB)
圧縮する個々のファイルサイズの最大値を指定します。この値よりサイズの大きいファイルは、収集時に圧縮されません。また、保存域にも格納されず、かわりにファイルのフルパス名を記述した LINK ファイルが作成されます。
- 送信するファイルサイズの最大値 [KB] (100KB ~送信するファイル合計の最大値、省略値 = 2000KB)
送信する個々のファイルサイズの最大値を指定します。この値よりサイズの大きいファイルは、センタへ送信できません。
- 送信するファイル合計の最大値 [KB] (1000KB ~ 5000KB、省略値 = 5000KB)
送信するファイルサイズの合計の最大値を指定します。この値を超えた場合は、センタへ送信されません。

● ミニダンプ

- 収集するミニダンプの世代の最大値 (0 ~ 50、省略値 = 1)
収集するミニダンプの世代数を指定します。
- 何時間さかのぼって収集するか [時間] (0 ~ 120、略値 = 24)
収集するミニダンプの時間の範囲を指定します。ここで指定した時間より以前に収集されたミニダンプは、収集されません。

■「保存域」タブ

● 保存域のサイズ

- 保存域の使用最大値 [MB] (100MB～現在のドライブの空き領域の範囲で指定可能、省略値=500MB)
保存域として使用する容量の最大値を指定します。保存域の使用量がこの値を超えると、警告のダイアログが出力されます。
また、調査資料の自動削除が「自動削除する」になっている場合、保存域の使用量がこの値を超えると、収集日付の古いものから削除されます。
- 収集に必要な最小値[MB] (50MB～保存域の使用最大値の範囲で指定可能、省略値=50MB)
資料収集に必要な最小値を指定します。保存域のあるドライブの空き容量がこの値を下回ると、SIRMSによる資料収集ができなくなります。

● 調査資料の自動削除

- 自動削除する (省略値=自動削除する)
ここをチェックしておくと、保存域の使用量が使用最大値を超えた場合に、保存された日付の古い順に削除されます。

● 保存域の場所

- 保存域へのパス (省略値=なし)
保存域のパスを指定します。
[参照]により、ダイアログを開き、保存域の新たな位置を指定します。このパスを変更すると、保存域 (SAVEAREA2) が現在の位置から指定された位置へ移動します。調査資料の収集中は、この変更を行うことはできません。

■「トレースログ」タブ

この画面の情報は、サポート要員からの指示がない限り変更しないでください。また、SIRMSを再起動したときに有効になります。

● ログファイルの設定

- SIRMS ログファイルの最大行数 (設定範囲=1000～10000行、省略値=2000行)
SIRMSが出力する SIRMS ログ (sirms.log) の最大行数を指定します。

● トレースレベルの設定

- トレースレベル (省略値=標準)
SIRMSが出力する SIRMS ログ (sirms.log) のトレースレベルを指定します。

第 5 章

REMCS エージェントの トラブルシューティング

この章では、REMCS エージェントに関するトラブルとその対処方法、環境チェックツールの使い方、REMCS エージェントのアンインストール方法について説明しています。

5.1 インストール時のトラブル	94
5.2 サービス開始時のトラブル	95
5.3 運用操作メニューのトラブル	100
5.4 その他のトラブル	108
5.5 REMCS エージェント環境チェックツール	110
5.6 REMCS エージェントのバージョン確認	118
5.7 REMCS エージェントのアンインストール	119

5.1 インストール時のトラブル

REMCS エージェントのインストール時に発生するトラブル、およびインストール時に表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

■ トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
インストーラが起動しない。	すでにインストーラが起動しています。あるいは、他のアプリケーションと競合している可能性があります。 起動中の他のアプリケーションを終了してから、インストーラを起動してください。
Global Flash Service または Global Flash Tool のインストールで止まつたまま、先に進まない。	タスクバーやデスクトップ上に、最小化されたメッセージが表示されていないか確認してください。最小化されたメッセージが表示されている場合は、元のサイズに戻してメッセージを確認し、処理を指示してください。
REMCS エージェントのインストール後、ErrNotify メッセージが表示された。	ErrNotify メッセージは、お客様がまだレジストレーション前に装置異常が発生した場合に表示されます。異常にに関する情報がイベントログに出力されていますので、内容を確認のうえ、サポート要員にご連絡ください。

■ メッセージと対処方法

メッセージ	対処方法
メモリ領域を確保できませんでした。	インストール作業のためのメモリ領域を確保しようとして失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度インストールを行ってください。
レジストリ操作 (xxx) に失敗しました。	xxx 情報をレジストリに書き込む際にエラーが発生しました。 いったんインストールを中止し、Administrator 権限でログオンしているか確認してください。その後、再度 REMCS エージェントのインストーラを起動し、上書きインストールを行ってください。
SNMP サービスが動作していません。続行できません。	SNMP サービスがインストールされていないか、あるいは正常に動作していません。 次の手順で対処してください。 <ol style="list-style-type: none"> Windows のタスクマネージャを起動して、REMCS エージェントのインストールを強制終了します。 SNMP サービスをインストールします。 REMCS エージェントを上書きインストールします。
Intel® LANDesk® Server Manager Server Serviceのインストールされたパスが見つかりません。セットアップを中止します。	Servervisor が正常にインストールされていません。 いったんインストールを中止し、再度 REMCS エージェントのインストーラを起動し、上書きインストールを行ってください。
Srvctrl.exe アプリケーションエラーが発生しました。「メモリが "read" になることはできませんでした。」のメッセージが表示されます。	このアプリケーションエラーが発生しても、以降のインストールや運用に影響はありません。[OK] をクリックしてメッセージ画面を閉じ、作業を続行してください。

5.2 サービス開始時のトラブル

サービス開始時に発生するトラブル、およびサービス開始時に表示されるメッセージへの対処方法を説明します。

接続確認の実施でエラーが発生した場合は、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を使用して、原因究明や、調査資料の収集を行ってください。

■ トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
Fujitsu SMB ユーティリティがスタートメニューに存在しない。	SMB 管理ツールがインストールされていません。 REMCS エージェントの上書きインストールを行ってください。

■ メッセージと対処方法

● レジストレーションと環境設定に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
レジストレーション中です。しばらくしてから起動してください。	管理サーバからレジストレーションを実行しています。 情報の変更を行う場合は、しばらくしてから起動してください。
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。 入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。 入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。 メール (SMTP) サーバのホスト名または IP アドレスが正しいかどうか確認してください。
スケジュールを入力してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。 正しく設定してください。
曜日を指定してください。	定期接続スケジュール設定の曜日が正しく設定されていません。 正しく設定してください。
日付を指定してください。	定期接続スケジュール設定の日付が正しく設定されていません。 正しく設定してください。

メッセージ	対処方法
時刻の指定に誤りがあります。	定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は 0:00 ~ 23:59 の範囲の値です。入力した時刻を確認し、正しく設定してください。
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。 開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。 開始時刻を終了時刻より前に設定してください。
構成情報が収集できませんでした。設定を確認してください。	構成情報を収集できませんでした。 インストールしたソフトウェアが正常に動作していない可能性があります。サーバを再起動し、再度処理を行ってください。それでもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
E-mail が送信できませんでした。設定を確認してください。	E-mail を送信できませんでした。 メールサーバ、送信元メールアドレスが正しいかどうか確認してください。
設定結果を保存できませんでした。設定を確認してください。	ディスク領域不足によるファイルアクセスエラー、メモリ領域確保の失敗、サービス (F5EP00RMService) の未起動などが考えられます。20 分待ってから再度処理を実行してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
接続確認に失敗しました。設定を確認してください。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 HTTPproxy サーバの設定ミス、ネットワーク上のエラー、REMCS エージェントの設定ファイルの破損などが考えられます。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
管理サーバの登録に失敗しました。設定を確認してください。	管理サーバの登録に失敗しました。 設定を確認して、再度、登録作業を実施してください。
顧客情報の受信に失敗しました。レジストレーションを終了します。	管理サーバから顧客情報を受信できませんでした。 管理サーバのホスト名、ドメイン名や、ネットワーク環境が正常かどうか確認してください。

● SMB ユーティリティに関するエラーコードおよびメッセージ

エラーコード	メッセージ	対処方法
2001	DLL の呼び出しインターフェースが不正です。プログラムを実行することはできません。	ユーティリティを起動するためのインターフェースで異常を検出しました。 REMCS エージェントをいったんアンインストールし、再度インストールしてください。
2002	プログラムを実行するためのメモリが獲得できません。	メモリ領域の確保に失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度ユーティリティを起動してください。
2007	SMB のサポート機能レベル獲得に失敗しました。処理を中止します。	SMB のサポート機能レベルが確認できませんでした。 SMB に異常があると考えられます。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

エラーコード	メッセージ	対処方法
3001	ドライバアクセスエラーです。DeviceIoControl が正常に終了しませんでした。	ドライバとの通信に使用する DeviceIoControl 関数が予期せぬ異常を返しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
3002	起動に失敗しました。デバイスの状態を確認してください。	SMB ドライバに対する開設処理が異常終了しました。 SMB ドライバが正しくインストールされ、正常に動作していることを確認してください。なお、ドライバのインストール直後の場合は、システムを再起動してください。
3003	ドライバアクセスエラーです。ハードウェア異常を検出しました。	SMB ドライバからハードウェア異常が通知されました。 SMB のハードウェアに異常があります。サポート要員にご連絡ください。
3004	ドライバアクセスエラーです。ファームウェア異常を検出しました。	SMB ドライバからファームウェア異常が通知されました。 SMB のファームウェアに異常があります。サポート要員にご連絡ください。
3006	ドライバアクセスエラーです。不明なエラー復帰を検出しました。	SMB ドライバから不明な異常が通知されました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
3007	ドライバアクセスエラーです。メモリアクセス異常、またはタイムアウトエラーを検出しました。	SMB ドライバからメモリアクセス異常、またはタイムアウト異常が通知されました。 サポート要員にご連絡ください。
4001	E-Mail 発信テストに失敗しました。E-Mail 情報の設定内容を確認して下さい。	E-Mail の発信テストを行うための E-Mail 情報の設定に誤りがあります。 設定内容を確認してください。
4002	E-Mail 発信テストに失敗しました。SMTP プロトコル異常を検出しました。	E-Mail の発信テストが SMTP プロトコル異常により失敗しました。 サポート要員にご連絡ください。
4003	E-Mail 発信テストに失敗しました。サーバに接続することができませんでした。	E-Mail の発信テストが SMTP サーバ接続タイムアウトにより失敗しました。 SMB または SMTP サーバが正しくネットワークに接続されているか確認してください。また、通信制御、E-Mail 情報の設定に誤りがないか確認してください。
4004	E-Mail 発信テストに失敗しました。ファームウェア異常を検出しました。	E-Mail の発信テストがファームウェア異常により失敗しました。 サポート要員にご連絡ください。
4005	E-Mail 発信テストに失敗しました。「通信制御」シートの IP アドレス項目が設定されていません。	SMB の IP アドレスが未設定です。 「通信制御」シートで SMB の IP アドレスを設定してから、再度、E-Mail 発信テストを実施してください。
5001	パラメタの指定に誤りがあります。フォーカス位置のパラメタの有効範囲を確認して下さい。	数値型項目に指定した文字が不正、または値が有効範囲外です。設定内容を確認してください。

エラーコード	メッセージ	対処方法
5002	パラメタの指定に誤りがあります。フォーカス位置のパラメタに指定している文字列の有効性を確認して下さい。	文字列型項目に指定した文字列の指定方法に誤りがあります。 設定内容を確認してください。
5003	指定した情報はすでに登録されています。	すでに存在している情報と同じ情報を指定しました。今回の設定は無視されます。
5005	依存関係にある項目が未入力になっています。フォーカス位置のパラメタ値を入力して下さい。	依存関係により設定が必須となった項目が未入力になっています。 設定内容を確認してください。
6001	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (GLOBAL ディレクトリがありません)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6002	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (バージョン情報 TXT がありません)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6003	REMCS エージェントのバージョンを確認してください。	無効な REMCS エージェント CD です (CD-ROM 内のファームが古いものです)。 REMCS エージェントのバージョンを確認してください。
6004	F3GVSET.DLL の呼び出しに失敗しました。system32 フォルダ内に F3GVSET.DLL が格納されていることを確認してください。	DLL 呼び出しエラーです。 システムフォルダ内のF3GVSET.DLLを確認してください。
6005	F3GVSET.DLL の呼び出しに失敗しました。F3GVSET.DLL のエントリポイントが見つかりません。	DLL 呼び出しエラーです。DLL が破損している可能性があります。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6006	内部エラーが発生しました。ファームウェアアップデートアプリケーションのカレントに移動できません。	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6007	内部エラーが発生しました。CDROM ドライブ名を取得できません。(buffer over)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6008	内部エラーが発生しました。CDROM ドライブ名を取得できません。(return value error)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6009	CDROM ドライブを検出できませんでした。デバイスの状態を確認してください。	CD-ROM ドライブの接続状態を確認してください。
6010	内部エラーが発生しました。ファームウェアアップデートアプリケーションを起動できません。	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

エラーコード	メッセージ	対処方法
6011	内部エラーが発生しました。カレントディレクトリを取得できません。(buffer over)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6012	内部エラーが発生しました。カレントディレクトリを取得できません。(return value error)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
6013	内部エラーが発生しました。(failure in chdir)	プログラム内で内部エラーを検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
9999	内部エラーが発生しました。	プログラム内で内部矛盾を検出しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

● SMB 監視エージェントに関するメッセージ

メッセージ	対処方法
SMB の動作環境でセットアップ異常が発生しています。(重要度: 警告)	SMB の環境設定に誤りがあります。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> SMB の IP アドレスが設定されていません。SMB ユーティリティの「通信制御」シートで IP アドレスを設定してください。 SMB の時計が設定されていません。SMB ユーティリティの「その他」シートで時計設定を実行してください。
SMB の動作環境でセットアップ異常が発生しています。(重要度: 危険)	SMB の環境設定に誤りがあります。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 制御ケーブルが接続されていません。SMB、およびサーバ本体の『取扱説明書』を参照し、制御ケーブルを接続してください。 制御ケーブルが 2 本接続されています。SMB、およびサーバ本体の『取扱説明書』を参照し、搭載するサーバに合った制御ケーブルのみを接続してください。 サーバ本体との初期通信が正常に動作していません。いったん、サーバ本体の電源と SMB 接続の AC アダプタの電源を切った後、再度これらの電源を入れてください。 <p>上記処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。</p>
SMB でコマンド処理異常が発生しています。(重要度: 危険)	SMB の通信処理で異常を検出しました。 次の要因が考えられますので、確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> E-Mail 発信に失敗しました。SMB ユーティリティの「その他」シートで E-Mail テストを実施し、失敗の要因を対処してください。 <p>上記処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。</p>
※上記以外の異常 SMB で xxxx 異常が発生しています。(重要度: 危険)	SMB のファームウェア、およびハードウェアの異常を検出しました。 サポート要員にご連絡ください。

5.3 運用操作メニューのトラブル

サービス開始後の設定変更など、運用操作メニューに関するトラブル、およびメッセージへの対処方法を説明します。

なお、ネットワーク環境に関するトラブルが発生したときには、「5.5 REMCS エージェント環境チェックツール」(→ P.110) を使用して、原因究明、調査資料の収集を行ってください。

■ 運用操作メニュー全般に関するトラブルと対処方法

トラブル	対処方法
DLT、MO の異常が REMCS センタに通知されない。	異常を検出する特定のソフトウェア（ドライバを含む）がないため、DLT、MO などのリムーバブルドライブの異常はアラート通知できません。
MS-DOS（メンテナンス区画）が起動してしまう。	システム起動時に「Press F10 to start tools of Maintenance Partition.」というメッセージが 10 秒間表示されているときに、【F10】キーを押したことが考えられます。 MS-DOS が起動した状態から、次の手順で復旧してください。 1. REMCS エージェント CD の Chgpid フォルダを、フォーマット済みのフロッピーディスクにコピーします。 2. Chgpid フォルダをコピーしたフロッピーディスクをセットします。 3. 次のように入力し、それぞれ【Enter】キーを押します。 <pre>cd chgpid chgpid /B:OFF</pre>
Servervisor コンソールで SCSI アレイコントローラが監視できない（I/O の部分が赤ランプになっている）。	SCSI アレイコントローラカードに添付されている GAM ドライバがインストールされていません。 SCSI アレイコントローラカード添付のマニュアルを参照して、GAM ドライバをインストールしてください。
Servervisor コンソールの I/O の部分に SMB が表示されない。	Fujitsu SMB CI サービスが起動されていない、または正常にインストールされていない可能性があります。 「付録 C.3 サービス開始時の設定」の「■ SMB 監視エージェント機能を有効にする」(→ P.135) を参照し、Fujitsu SMB CI サービスを起動してください。
SNMP が開始時にハングした。	LDSM/Servervisor が正常にインストールされていない可能性があります。 「付録 D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール」(→ P.138) を参照して、再インストールを実施してください。
英語環境で REMCS エージェントが使用できない。	REMCS エージェントでは日本語環境のみをサポートしています。
サービスに Fujitsu SMB CI が登録されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ServerManager コンソール、Servervisor コンソールが正常に起動できない場合は、Servervisor が正しくインストールできていません。装置添付のマニュアルを参照の上、Servervisor のアンインストール、再インストールを実施してください。 SMB 管理ツールがインストールされていません。REMCS エージェントを上書きインストールしてください。

トラブル	対処方法
起動時に ciодmi サービスが起動できない。	ciодmi サービスは Adaptec SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に Fujitsu IDE RAID CI サービスが起動できない。	Fujitsu IDE RAID CI サービスは IDE アレイコントローラカードを監視するサービスです。 IDE アレイコントローラカードが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に mdacci サービスが起動できない。	mdacci サービスは SCSI アレイコントローラを監視するサービスです。 SCSI アレイコントローラカードが搭載されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に QLogicDMIIInstrumentation サービスが起動できない。	QLogicDMIIInstrumentation サービスはファイバチャネルカードを監視するサービスです。 ファイバチャネルカードが搭載されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に rcicomm サービスが起動できない。	rcicomm サービスはディスクキャビネットを監視するサービスです。 ディスクキャビネットが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。

トラブル	対処方法
起動時に SymCiService サービスが起動できない。	Symbios NT 2.0 CI Service サービスと SymCiService サービスは Symbios SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に Symbios Nt 2.0 CI Service サービスが起動できない。	Symbios NT 2.0 CI Service サービスと SymCiService サービスは Symbios SCSI コントローラを監視するサービスです。 このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、SCSI アレイコントローラ監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、SCSI アレイコントローラ監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。
起動時に WdmFci サービスが起動できない。	WdmFci サービスはディスクキャビネットを監視するサービスです。 ディスクキャビネットが接続されていない場合は、このサービスのスタートアップ設定を無効にするか、ディスクキャビネット監視機能をアンインストールしてください。 アンインストール手順は、ディスクキャビネット監視機能、または LDSM/Servervisor に添付されているマニュアルを参照してください。

■ メッセージと対処方法

● 運用操作メニュー（レジストレーション）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
xxx が不正です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された値が不適当です。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力された文字に、指定できない文字が入っています。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
未入力の項目があります。	入力した値に誤りがあります。 内容を確認してください。
入力されたデータが長すぎます。	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
入力桁オーバー	制限字数を超える文字を入力しています。 制限字数を確認して、もう一度入力してください。
モデル名が見つかりません。確認してください。	入力した型名に対応するモデル名が見つかりません。 入力した型名が正しいかどうか確認してください。
チェックコードに誤りがあります。再入力してください。	入力したチェックコードが間違っています。 入力したチェックコードが正しいかどうか確認してください。
指定されたメールサーバに接続できません。	メールサーバに接続できませんでした。 メール (SMTP) サーバのホスト名または IP アドレスが正しいかどうか確認してください。

メッセージ	対処方法
定期接続設定スケジュールを設定してください。	定期接続スケジュールが正しく設定されていません。 「■ 定期接続時刻の変更」(→ P.67) を参照して正しく設定してください。
環境の取得に失敗しました。環境設定は行えません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
環境設定に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ取得エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリ登録エラー	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
時間が不正です。0 ~ 23 を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は 0:00 ~ 23.59 の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
分が不正です。0 ~ 59 を指定してください。	入力した定期接続スケジュール設定の時刻が正しくありません。 入力できる時刻は 0:00 ~ 23.59 の範囲の値です。入力した値が正しいかどうか確認してください。
接続時刻の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
定期接続の通知に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
開始時刻と終了時刻に同じ時刻が設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻と終了時刻が同じ時刻になっています。 開始時刻と終了時刻に異なる値を入力してください。
開始時刻が終了時刻より後に設定されています。	入力した定期接続スケジュール設定で、時刻の開始時刻が終了時刻より後に設定されています。 開始時刻を終了時刻より前に設定してください。

● 運用操作メニュー（ファーム管理）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
タイムアウトが発生したため、終了しました。	ファームウェアをダウンロードできなかったときに表示されます。 このメッセージは、ファームウェアエラーとして REMCS センタに通知されます。
ファームウェアがダウンロードされていません。スケジュールの変更を行えませんでした。	ファームウェア適用スケジュールをスケジュール設定状態にするためには、未適用の新しいファームウェアをサーバ上に受信しておく必要があります。新しいファームウェアを受信した後に、スケジュールの変更を行ってください。
スケジュールの変更を行えませんでした（レジストリ設定エラー）。	レジストリ操作エラーのため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

メッセージ	対処方法
スケジュールの変更を行えませんでした（メンテナンス区画またはファームウェアの障害）。	特定不明のエラーが発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
スケジュールの変更を行えませんでした（SMB の障害）。	SMB に障害が発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
スケジュールの変更を行えませんでした（DLL がありません）。	スケジュール変更処理を行う際に使用する DLL ファイルが見つかりませんでした。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、いったん REMCS エージェントをアンインストールし、再度インストールしてください。
スケジュールの変更を行えませんでした（詳細情報なし）。	特定不明のエラーが発生したため、定期接続スケジュールの変更を行えませんでした。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
10 分後に再受信してください。	構成情報送信後、10 分以内にファームウェアの手動受信を行いました。 構成情報送信後、10 分経過してからファームウェアの手動受信を行ってください。
フロッピーディスクに DOS システムがありません。正しいフロッピーメディアを挿入してください。	セットしたフロッピーディスクに DOS システムがありません。 ファームウェア適用に使用するフロッピーディスクには、あらかじめ DOS システムをコピーしておく必要があります。フロッピーディスクに DOS システムをコピー後、再度適用フロッピー作成を実施してください。
ファームウェアのコピーに失敗しました。フロッピーメディアが壊れていなかを確認してください。	適用フロッピーディスクにファームウェアをコピーしている最中にエラーが発生しました。 フロッピーディスクをフォーマットした後に再度適用フロッピーを作成してください。
受信ファームウェアの展開に失敗しました。イベントログを参照し、ハードディスクドライブに問題がないかを確認してください。	ファームウェアアーカイブをハードディスク上に展開している最中にエラーが発生しました。 イベントログをチェックしてハードディスクに異常がないか確認してください。
テンポラリファイルの削除に失敗しました。イベントログをチェックしてハードディスクドライブに異常がないかを確認してください。	ハードディスク上に展開したファームウェアファイルを削除している最中にエラーが発生しました。 イベントログをチェックしてハードディスクに異常がないか確認してください。
フロッピーディスクに空き容量がないため、適用フロッピーの作成が行えません。フロッピーディスクに余計なファイルがないことを確認してください。	セットしたフロッピーディスクの空き容量が 1MB 未満です。 フロッピーディスクの空き容量を 1MB 以上確保してから、再度適用フロッピーを作成してください。

● 運用操作メニュー（構成情報）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
構成情報の取得に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、失敗しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
MIF ファイルの作成に失敗しました。	ディスクの空き容量が不足している可能性があります。 必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.13 参照）を確保してください。再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

● 運用操作メニュー（保守状態設定）に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
保守開始日時の登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
保守作業状態フラグの登録に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

● 運用操作メニュー全般に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
現在ファーム適用処理中のため、この機能は利用できません。	現在、装置にファームウェアを適用しているので、機能が制限されています。 ファームウェア適用処理が終了した後に、もう一度実行ください。
ログの書き込みに失敗しました。	ディスクの空き容量が不足しています。 必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.13 参照）を確保してください。
レジストリ情報の操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
エラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ネットワークエラーが発生しました。	ネットワークエラーのため、正常に通信できません。 お客様のサーバがネットワークに正常に接続されているかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
初期化されていません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
サーバが接続を拒否しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
通信可能状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
接続できませんでした。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程待ってから、再度処理を行ってください。

メッセージ	対処方法
応答待ち状態ではありません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程度待ってから、再度処理を行ってください。
他のプロセスが通信中なので接続できません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 5分程度待ってから、再度処理を行ってください。
非同期モードでの通信です。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
ユーザ ID が無効です。	入力したユーザ ID が間違っています。 再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
パスワードが無効です。	入力したパスワードが間違っています。 再度入力しても同じメッセージが表示される場合は、サポート要員にご連絡ください。
メモリ確保に失敗しました。	メモリ領域の確保に失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合は、すべて終了させてから再度処理を行ってください。
リモート保守機能を一時停止中なので、送信できません。	REMCS センタ接続が停止中なので、処理を行えませんでした。 REMCS センタ接続の再開後に再度処理を行ってください。
ディスク容量が不足しています。	ディスクの空き容量が不足しています。 必要な空き容量（「1.3 必要なシステム」（→ P.13）参照）を確保してください。
保守作業中なので、送信できません。	保守作業中のため、処理を行えませんでした。 保守作業終了後に再度処理を行ってください。
パラメータエラーが発生しました。	パラメータエラーのため、処理を中止しました。 「■ E-mail 設定の変更」（→ P.68）を参照し、E-mail 環境の設定が正しいかどうか確認してください。その後、再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
装置 ID がありません (DRMS)。	REMCS センタにお客様のサーバの装置 ID が登録されていません。 「第3章 サービスの開始」（→ P.23）を参照して、サービス開始処理を行ってください。
サービスにアクセスできません。	REMCS SS-Agent のサービスが起動していません。 コントロールパネルからサービスを起動して、「SystemWalker RmAosfB サービス」を起動してください。
サービスの再起動に失敗しました。	REMCS SS-Agent のサービスを起動しようとしたが、失敗しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
レジストリにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
イベントログにアクセスできません。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
プロセス間通信に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
構成情報 ID が違っています。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 10～15分程度待ってから、再度処理を行ってください。

メッセージ	対処方法
構成情報 ID 不一致	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 10～15 分程度待ってから、再度処理を行ってください。
ファイルアクセスエラーが発生しました。	ファイルアクセスエラー（指定ファイルが見当たらない、ファイルに出力できない、など）のため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
一時ファイルのアクセスエラーが発生しました。	一時ファイルへのアクセスエラーのため、処理を中止しました。 ディスクの空き容量が不足していないかどうか確認してから、再度処理を行ってください。
SystemWalker がインストールされていません。	REMCS SS-Agent が正常にインストールされていません。 一度 REMCS エージェントをアンインストールした後に、再度インストールを行ってください。
HTTP サーバでエラーが発生しました。	HTTP サーバでの処理でエラーが発生しました。 HTTPproxy サーバの設定を確認してください。
HTTP サーバが見つかりません。	HTTP サーバが見つかりません。 「■ HTTP 設定の変更」（→ P.68）を参照し HTTPproxy サーバの設定を確認してください。
HTTP サーバに接続できません。	HTTP サーバと正常に通信できません。 HTTPproxy サーバの設定を確認してください。また、管理サーバ接続の場合は、管理サーバの DRMS（サービス名：SystemWalker RmDrms）が停止していないかどうか確認してください。それでもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
HTTP アクセス中に回線が切断されました。	HTTP サーバアクセス中に、回線が切断されました。 再度処理を行ってください。
HTTP／DRMS 固有のエラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 再度処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
HTTP のクライアント接続数がオーバーしました。	HTTP サーバに接続できるクライアント数を超えたため、接続できませんでした。 しばらくしてからもう一度処理を行ってください。
メールサーバでエラーが発生しました。	メールサーバでの処理でエラーが発生しました。 メールサーバが正常に動作しているかどうか確認してください。
メールサーバが見つかりません。	メールサーバが見つかりません。 「■ E-mail 設定の変更」（→ P.68）を参照し、ネットワークの設定、メール（SMTP）サーバの設定が正しいかどうか確認してください。
メールサーバに接続できません。	メールサーバと正常に通信できません。 ネットワークの設定、メール（SMTP）サーバの設定を確認してください。
メールサーバアクセス中に回線が切断されました。	メールサーバアクセス中に、回線が切断されました。 再度処理を行ってください。
E-mail 送信時にエラーが発生しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。
操作に失敗しました。	特定不明のエラーが発生したため、処理を中止しました。 入力確認、再度送信処理を行ってもエラーが発生する場合は、サポート要員にご連絡ください。

5.4 その他のトラブル

ソフトウェアアンインストール時のトラブル、管理サーバ接続時のトラブルについて、説明します。

5.4.1 アンインストール時のトラブル

■ トラブルと対処方法

トラブル	対処方法
アプリケーションの追加と削除メニューに「REMCS エージェント」がない。	すでに REMCS エージェントがアンインストールされているか、インストール時の異常でメニューに項目が登録されなかった可能性があります。REMCS エージェント CD (あるいは ServerWizard CD-ROM) をセットし、CD-ROM 上の ¥Remote¥uninst.exe を直接実行してください。アンインストーラが起動します。
アンインストーラが起動しない。	すでにアンインストーラが起動しています。あるいは、他のアプリケーションと競合している可能性があります。起動中の他のアプリケーションを終了してから、アンインストーラを起動してください。
SMB 管理ツールのアンインストール時に、媒体挿入画面から先に進めない	V1.0L30 ~ V3.0L40 を V3.0L41 以降の REMCS エージェントにアップデートした場合の不具合です。 現在インストールされている REMCS エージェントで、いったん上書きインストールした後、再度アンインストールを行ってください。

■ メッセージと対処方法

● Servervisor に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
メモリ領域を確保できませんでした。	アンインストール作業のためのメモリ領域を確保しようとして失敗しました。 他のアプリケーションが起動している場合はすべて終了してから、再度インストールを行ってください。
SNMP サービスが動作していません。続行できません。	すでに SNMP サービスがアンインストールされているか、正常に動作していません。 タスクマネージャを起動して、REMCS エージェントのアンインストールを強制終了し、SNMP サービスが動作していない原因を調査してください。SNMP サービスを正常に動作させた後に、再度 REMCS エージェントのアンインストーラを起動してアンインストール作業を行ってください。

● SMB 管理ツールに関するメッセージ

メッセージ	内容／対処方法
Intel® LANDesk® Server Manager Server Service のインストールされたパスが見つかりません。一部または全部のファイルが削除されない可能性があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。
Intel® LANDesk® Server Manager の DMI モジュールのインストールパスを見つけることができませんでした。一部または全部のファイルが削除されない可能性があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。
[Alert Definition Originator サービス] がインストールされていません。このままではアンインストールが正常に行われない場合があります。	すでに Servervisor がアンインストールされています。特に問題はありませんので、[OK] をクリックして先に進んでください。

5.4.2 管理サーバ接続時のトラブル

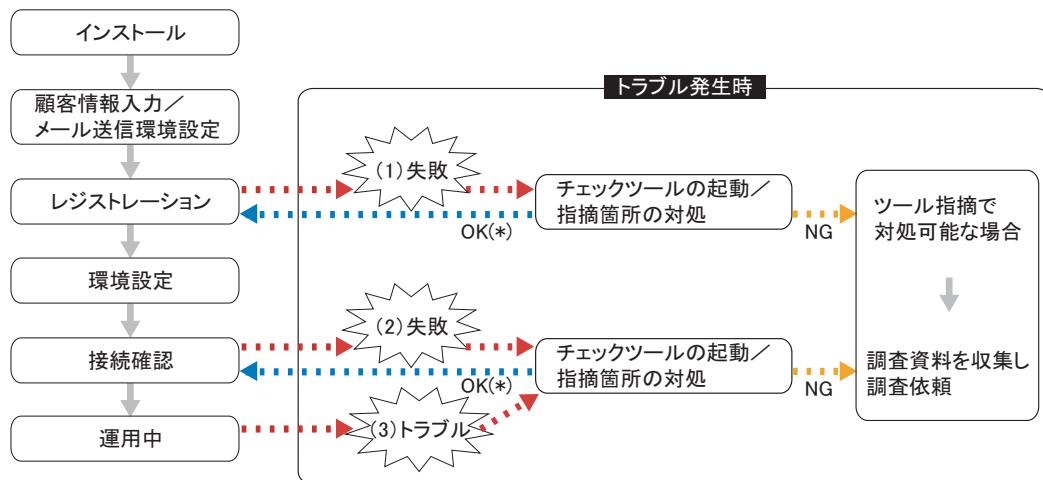
トラブル	対処方法
管理サーバの画面 (SupportDesk コンソール) で、「配布／適用状況」が「配布失敗」となった。	<p>次の事項をご確認ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理サーバに新しいファームウェアが存在していない可能性があります。 ・被管理サーバのファームウェア運用設定「ファームウェア適用スケジュール表示」が、「次回電源投入時、ファームウェア適用します」の状態となっています。この場合は、一度スケジュールキャンセルを行ってから、再度配布指示を行ってください。 ・管理サーバの環境設定 (HTTP 設定) に誤りがないかどうか、確認してください。

5.5 REMCS エージェント環境チェックツール

ネットワーク環境のトラブル解決をサポートするツール、「REMCS エージェント環境チェックツール」の使い方について説明します。

5.5.1 REMCS エージェント環境チェックツールとは

REMCS エージェント環境チェックツール（以降、チェックツールと呼びます）は、REMCS エージェントのネットワーク環境トラブル（REMCS センタとの通信ができない、など）が発生したときに使用する、原因究明・調査資料の収集を行うためのサポート用ツールです。



チェックツールは動作に必要な環境定義（装置 ID、接続先 REMCS センタの HTTP サーバ名など）を、REMCS エージェントの環境設定ファイルから読み込みます。V3.0L43 以前の REMCS エージェントがインストールされた環境、または REMCS エージェントをインストールしていない環境での動作については機能が制限されます。詳細については、「5.5.3 注意事項」（→ P.117）を参照してください。

■ チェックツールの格納場所

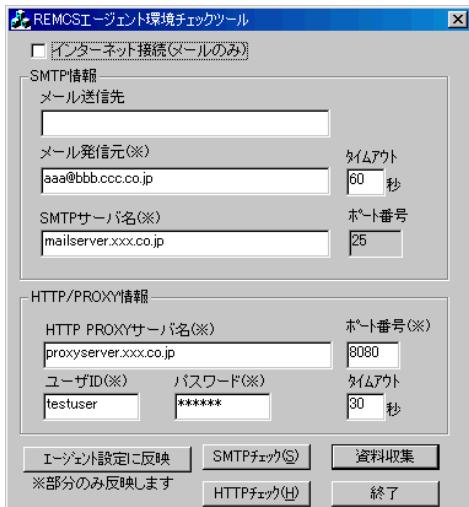
チェックツールは、REMCS エージェント CD の次の場所に格納されています。

[CD-ROM ドライブ] : ¥Tool¥Netcheck¥CheckTool.exe

■ チェックツールの画面

CheckTool.exe をダブルクリックするとチェックツールが起動し、次の画面が表示されます。

「メール送信先」、および「SMTP サーバ名」の「ポート番号」の項目以外は、REMCS エージェントで設定したパラメータが読み込まれて、表示されます。



項目	説明
インターネット接続（メールのみ）	「インターネット接続（メールのみ）」の接続形態の場合は、ここをチェックします。HTTP 関連の機能がグレー表示になり、メール以外の設定ができなくなります。
SMTP 情報	
メール送信先	テストメールの送信先を設定します。
メール発信元	メールの発信元を設定します。
タイムアウト	SMTP サーバとの接続時のタイムアウト値です。通常変更の必要はありません。
SMTP サーバ名	SMTP サーバ名です。IP アドレスでの指定も可能です。
ポート番号	SMTP のポート番号です。変更することはできません。
HTTP/PROXY 情報	
HTTP PROXY サーバ名	HTTP Proxy サーバ名です。IP アドレス指定も可能です。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
ポート番号	Proxy サーバのポート番号です。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
ユーザ ID、パスワード	HTTP Proxy サーバに認証が必要な場合のみ設定します。ユーザ環境でインターネットへの HTTP 通信に Proxy が必要な場合のみ設定してください。
タイムアウト	HTTP 接続確認時のタイムアウト値です。通常変更の必要はありません。
[エージェント設定に反映]	※印のついた項目のみ、REMCS エージェントの設定ファイルに反映します。 チェックに成功した場合に REMCS エージェントに設定を反映させるために使用します。
[SMTP チェック]	SMTP チェック機能の画面に移ります。SMTP 関連トラブル時に使用します。詳しくは「■ SMTP チェック」（→ P.112）を参照してください。

項目	説明
[HTTP チェック]	HTTP チェック機能の画面に移ります。HTTP 関連のトラブル時に使用します。詳しくは「■ HTTP チェック」(→ P.113) を参照してください。
[資料収集]	調査資料集機能の画面に移ります。詳しくは「■ 資料収集」(→ P.116) を参照してください。
[終了]	チェックツールを終了します。

5.5.2 使用方法

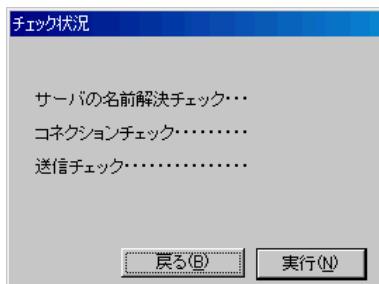
■ SMTP チェック

メール関連のトラブルが発生した時は、次の手順でチェックを行います。



- チェックツールは起動時ののみREMCSエージェントの設定を読み込むため、REMCSエージェントの画面側で設定を変更した場合は、ツールを起動しなおしてください。

- 「REMCS エージェント環境設定チェックツール」画面で「SMTP 情報」を入力し、[SMTP チェック] をクリックします。
「チェック状況」画面が表示されます。

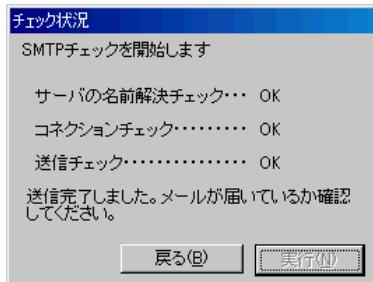


- [実行] をクリックして、チェックを開始します。

各項目のチェックが終了すると、結果が表示されます。

●送信に成功した場合

次の画面が表示されます。送信先にメールが届いていることを確認してください。



■ 重要

- レジストレーション処理（レジストレーション～接続確認完了）中の場合は、チェックツールからは REMCS エージェントの設定に反映できないため、エージェントの画面で修正してください。

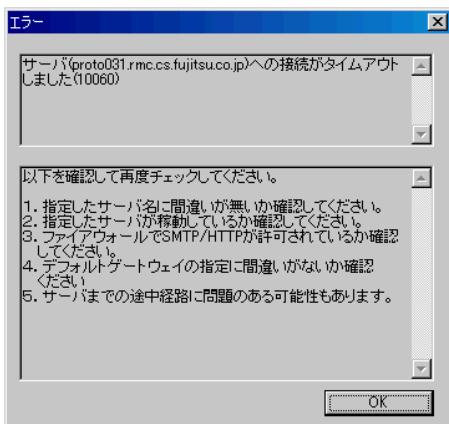
■ POINT

- 成功した環境設定を REMCS エージェントに反映させるには、[戻る] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、[エージェント設定に反映] をクリックしてください。また、実際に REMCS エージェントでの接続を確認してください。

● 送信に失敗した場合

チェック中に異常を発見した場合、次のように詳細のエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージを元に、ネットワーク環境の確認やパラメータの再設定を行ってください。

[OK] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、再度チェックを行ってください。



● トラブルが解決しない場合

エラーメッセージの対処方法に従ってもトラブルが解決できない場合は、「■ 資料収集」（→ P.116）を参照して資料を収集します。

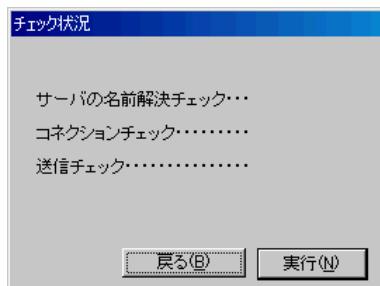
■ HTTP チェック

HTTP 関連のトラブルが発生した時は、次の手順でチェックを行います。

⚡ 重要

- ▶ チェックツールは起動時のみREMCS エージェントの設定を読み込むため、REMCS エージェントの画面側で設定を変更した場合は、ツールを起動しなおしてください。

- 1 「REMCS エージェント環境設定チェックツール」画面で「HTTP/PROXY 情報」を入力し、[HTTP チェック] をクリックします。
「チェック状況」画面が表示されます。

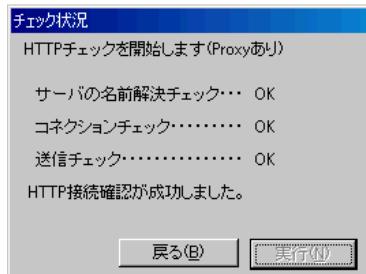


- 2 [実行] をクリックして、チェックを開始します。

各項目のチェックが終了すると、結果が表示されます。

●接続確認に成功した場合

次の画面が表示されます（プロキシありでチェックした場合の例）。



⚡ 重要

- ▶ レジストレーション処理（レジストレーション～接続確認完了）中の場合は、チェックツールからはREMCS エージェントの設定に反映できないため、エージェントの画面で修正してください。

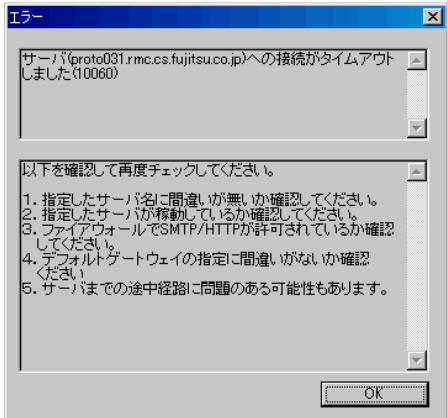
POINT

- ▶ 成功した環境設定をREMCS エージェントに反映させるには、[戻る] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、[エージェント設定に反映] をクリックしてください。また、実際にREMCS エージェントでの接続を確認してください。

●接続確認に失敗した場合

チェック中に異常を発見した場合、次のように詳細のエラーメッセージが表示されます。表示されたメッセージを元に、ネットワーク環境の確認やパラメータの再設定を行ってください。

[OK] をクリックして「REMCS エージェント環境チェックツール」画面に戻り、再度チェックを行ってください。



● トラブルが解決しない場合

エラーメッセージの対処方法に従ってもトラブルが解決できない場合は、「■ 資料収集」(→ P.116) を参照して資料を収集します。

■ 資料収集

調査に必要な資料を収集します。

● 収集される資料



- ▶ 調査資料は、SMTP チェック、HTTP チェック時に作成されるものもあるため、必ず SMTP チェック、HTTP チェック後に資料収集してください。

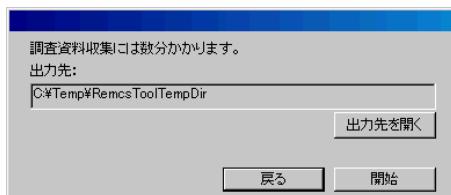
収集される資料は次のとおりです（環境設定によっては作成されない資料もあります）。

ファイル名／フォルダ名	説明
systeminfo.txt	システム情報（OS の種類、メモリ情報）
testenv.dft	チェックツール設定
ping_smtp.txt	ping smtp サーバ
ping_http.txt	ping http サーバ
ping_proxy.txt	ping proxy サーバ
ping_loopback.txt	ping 127.0.0.1 (TCP/IP のインストール状況確認)
tracert_smtp.txt	ping smtp サーバ
tracert_http.txt	ping http サーバ
tracert_proxy.txt	ping proxy サーバ
ipconfig_all.txt	ipconfig /all (自ホスト名、DNS 設定、IP アドレス、DHCP 他)
netstat_r.txt	netstat -r (ルーティングテーブル)
netstat_s.txt	netstat -s (プロトコルの統計情報)
netstat_an.txt	netstat -an (コネクション情報)
nslookup_smtp.txt	nslookup smtp サーバ
nslookup_http.txt	nslookup http サーバ
nslookup_proxy.txt	nslookup proxy サーバ
remcschk.log	チェックツール動作ログ
F5ep00Evan_log	ハード管理 AP の初期調査用ログ格納フォルダ (〈システムドライブ配下〉¥Program Files¥Fujitsu¥F5ep00Evan¥log)
DMSXXX.tmp	HTTP 確認結果ファイル。HTTP のチェックを行った回数分作成される。XXX の部分は適当な名前が付けられる。
recv.dat	HTTP 関連調査資料
errfile2.txt	HTTP 関連調査資料
trump.log	HTTP 関連調査資料
trump.env	HTTP 関連調査資料
connect.ini	HTTP 関連調査資料

● 収集方法

- 1** 「REMCS エージェント環境チェックツール」画面で【資料収集】をクリックします。

次の画面が表示されます。



- 2** 【開始】をクリックします。

画面に「処理中です。しばらくお待ちください。」と表示されます。

- 3** 「終了しました。」と表示された後、【出力先を開く】をクリックします。

出力された資料を参照できます。サポート要員の指示に従い、資料を送信してください。

5.5.3 注意事項

V3.0L43 以前の REMCS エージェントがインストールされた環境、または REMCS エージェントをインストールしていない環境では、SMTP 機能が使用できません。これは、チェックツールでは V3.0L50 以降の REMCS エージェントのメール送信機能を利用するためです。

5.6 REMCS エージェントのバージョン確認

インストールされているREMCS エージェントのバージョンを確認したい場合は、次の手順でREMCS エージェントを構成するソフトウェアのバージョンを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
「運用操作メニュー」画面が表示されます。
- 2 ウィンドウのタイトルバー上で右クリックし、表示されたメニューから「VL情報表示」を選択します。
「VL情報」画面が表示されます。



5.7 REMCS エージェントのアンインストール

REMCS エージェントのアンインストール手順を説明します。

アンインストール中に異常が発生した場合は、「5.4.1 アンインストール時のトラブル」(→ P.108) を参照してください。

重要

- ▶ フームウェア適用スケジュールが「次回電源投入時、フーム適用します」(スケジュール設定状態) になっている場合には、REMCS エージェントをアンインストールしないでください。
- ▶ REMCS エージェントをアンインストールする前に、すべてのプログラムを終了してください。

- 1** 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 2** 「アプリケーションの追加と削除」をダブルクリックします。
- 3** 「現在インストールされているプログラム」の一覧から「REMCS エージェント」を選択し、[変更 / 削除] をクリックします。
アンインストール確認メッセージが表示されます。
- 4** [はい] をクリックします。
アンインストールが開始されます。

以降、それぞれのソフトウェアのアンインストーラが順番に起動します。アンインストールの確認メッセージが表示された場合は、[はい] をクリックしてください。

REMCS エージェント CD などの CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、該当する CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットして、[OK] をクリックしてください。

Servervisor / LDSM をアンインストールする場合は、「付録 D Servervisor / LDSM のインストール、アンインストール」(→ P.138) を参照してください。

付録

この章では、旧サーバ機種をお使いの場合のサポート情報について説明しています。

付録 A REMCS エージェントの上書きインストール	122
付録 B ソフトウェア調査資料の収集と送信（SIRMS バージョン 1 の場合）	123
付録 C SMB に関する操作	131
付録 D Servervisor／LDSM のインストール、アンインストール	138

付録 A REMCS エージェントの上書きインストール

REMCS エージェントの上書きインストール手順について説明します。REMCS エージェントを上書きインストールすると、同時にファームウェアもアップデートされます。

POINT

- インストールされている REMCS エージェントのバージョンによって、上書きインストールではなく「アップデート」と表示される場合があります。

1 REMCS エージェントの CD-ROM をセットします。

自動的にアップデート処理が開始され、確認メッセージが表示されます。

自動的に開始されない場合は、エクスプローラなどで CD-ROM 内の "Setup.exe" をダブルクリックしてください。

2 [はい] をクリックします。

サーバ機種選択画面が表示されます。★常に表示されますか?★

3 「シリーズ名称」、「モデル名称」を選択し、[開始] をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

4 [はい] をクリックします。

REMCS エージェントの上書きインストールが開始されます。

以降は、画面の指示に従って操作してください。途中、ServerView などの CD-ROM をセットするようメッセージが表示された場合は、指示に従って CD-ROM をセットしてください。

5 上書きインストール処理終了後、サーバを再起動します。

6 再起動後、以下の設定および確認を行ってください。

●SMB を搭載している場合

SMB 監視エージェント機能を有効に設定します。

→「■ SMB 監視エージェント機能を有効にする」(P.135)

●定期接続時刻の確認

→「■ 定期接続時刻の変更」(P.67)

●接続確認

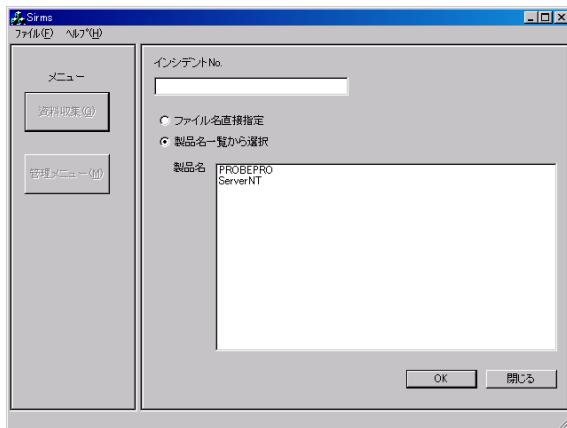
→「サービスの開始」(P.23) の利用する接続形態ごとの接続確認方法を参照してください。

以上で REMCS エージェントの上書きインストールは完了です。

付録 B ソフトウェア調査資料の収集と送信 (SIRMS バージョン 1 の場合)

SIRMS のバージョンが 1.x.x.x の場合のソフトウェア調査資料の収集と、送信方法について説明します。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [資料収集・送付] をクリックします。
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3** [資料収集] をクリックします。
「SIRMS 資料収集」画面が表示されます。



- 4** 調査資料を収集します。

調査資料の収集方法には、次の 2 つの方法があります。

● ファイル名直接指定

調査資料ファイルのフルパス名を直接指定して、調査資料を収集します。

調査資料を収集しようとする製品名が製品名一覧に表示されていない場合や、SIRMS では自動的に収集されない調査資料を個別に収集する場合に選択します。

→「B.1 製品名一覧から資料を収集する」(P.124)

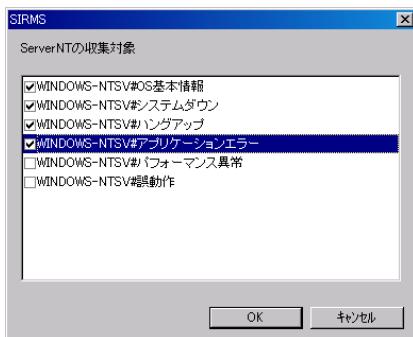
● 製品名一覧から選択

製品名の一覧から対象となる製品名を選択して、その製品についての調査情報を収集します。

→「B.2 ファイル名を指定して資料を収集する」(P.125)

B.1 製品名一覧から資料を収集する

- 1** 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2** [製品名一覧から選択] をチェックします。
一覧表内の製品名を選択できるようになります。
- 3** 製品名を選択して [OK] をクリックします。
調査資料グループ選択画面が表示されます。



POINT

- ▶ 調査資料グループとは、収集する調査資料を、障害の現象ごと、または複数の関連する調査資料ごとにグループ化して、調査資料の収集を容易にするためのものです。

- 4** 資料を収集したい調査資料グループにチェックを付けて、[OK] をクリックします。
収集開始確認メッセージが表示されます。
- 5** [OK] をクリックします。
収集作業を開始します。
- 6** 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが 700K バイト以下のときのみ表示されます。700K バイトを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

※ 重 要

- ▶ ファイルサイズが 700K バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存して、保存した媒体をセンタに送付してください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」(→ P.127) を参照してください。

- 7** [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。
送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。
収集した資料の保存場所については、「B.3 調査資料の保存場所」(→ P.126) をご覧ください。

B.2 ファイル名を指定して資料を収集する

- 1** 「SIRMS 資料収集」画面の「インシデント No.」に、サポート要員から提示されたインシデント番号（お問い合わせ番号）を入力します。
- 2** [ファイル名直接指定] をチェックします。
- 3** [OK] をクリックします。

「ファイル名直接指定」画面が表示されます。



- 4** [追加] をクリックします。
ファイル選択ダイアログが表示されます。
- 5** ファイルを選択して、[OK] をクリックします。
収集開始確認メッセージが表示されます。
- 6** 資料収集が完了すると、センタ送信確認メッセージが表示されます。
送信確認メッセージは資料ファイルのサイズが 700K バイト以下のときのみ表示されます。700K バイトを超える場合は、収集完了メッセージが表示されます。

重要

- ▶ ファイルサイズが 700K バイトを超える調査資料については、DAT などの外部記憶装置に保存して、保存した媒体をセンタに送付してください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」（→ P.127）を参照してください。

- 7** [OK] をクリックすると、収集した資料がセンタに送信されます。
送信が完了すると、収集完了メッセージが表示されます。
収集した資料の保存場所については、「B.3 調査資料の保存場所」（→ P.126）を参照してください。

B.3 調査資料の保存場所

収集した調査資料は、REMCS エージェントの保存域に格納されます。調査資料の保存域は、以下のような、すべてのユーザに共通なアプリケーションデータディレクトリ内に作成されます。

- Windows NT の場合
<Windows ディレクトリ> ¥Profiles¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea
- Windows 2000 の場合
<システムドライブ> :¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Fujitsu¥SIRMS¥SaveArea

POINT

- ▶ Windows NT から、Windows 2000 にアップグレードインストールした場合、保存域の場所は Windows NT と同じになります。

調査資料の収集が終わると、保存域内にインシデント番号と収集日時を組み合わせた名前を持つディレクトリが作成されます。このディレクトリに、調査グループごとにサブディレクトリが作成され、収集した調査資料が、圧縮されて保存されます。

調査資料保存ディレクトリ名：インシデント番号 _YYYYMMDDhhmmss
YYYY：西暦 4 桁表示
MM：月 (00 ~ 12)
DD：日 (00 ~ 31)
hh：時 (00 ~ 23)
mm：分 (00 ~ 59)
ss：秒 (00 ~ 59)
(例) : 000-0314-5678_200003141400

■ ファイルサイズが、10M バイトを超えるもの

ファイルサイズが、10M バイトを超える調査資料ファイルについては、収集した調査資料ファイルを保存域に格納する代わりに、そのファイルのフルパス名が書き込まれたファイル (.LINK ファイル) を格納します。

LINK ファイルの形式
ファイル名 :
インシデント番号 . 収集日時 . 製品名 .huge. 順序番号 . 送信日時 . 送付日時 .LINK
記録形式 :
ファイルの先頭行が、以下の形式のテキストファイル。
“調査資料ファイルのフルパス名”
(注) 調査資料ファイルのフルパス名は、二重引用符で囲む。

■ 調査資料のタイプ

REMCS エージェントでは、調査資料ファイルを、ファイルサイズと障害調査ですぐに必要かどうかに応じて、以下の 3 つのタイプに分類しています。

調査資料のタイプ	保存場所	センタ送信の可否	複数調査資料のアーカイブの可否
SMALL タイプ (700K バイト以下)	保存域	可	可
BIG タイプ (10M バイト未満)	保存域	不可	可
HUGE タイプ (10M バイト以上)	調査資料ファイルの元の場所	不可	不可

B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する

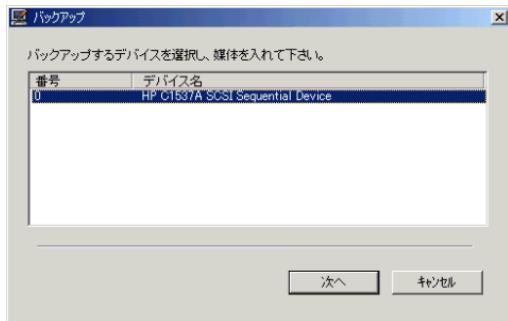
ファイルサイズが 10M バイトを超える場合は、外部記憶収集した調査資料は、SIRMS の「保存域」に格納されます。ここでは、保存されている調査資料を、DAT など外部記憶装置に保存する手順を説明します。Windows 2000 の場合は、SIRMS からバックアップツールを呼び出して DAT または MO に保存できます。

■ Windows NT の場合

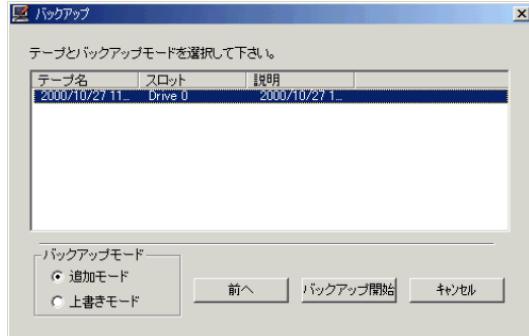
- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2 [資料収集・送付] をクリックします。
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3 [管理メニュー] をクリックします。
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。
- 4 保存する調査資料のインシデント番号と収集日時を確認します。
- 5 保存域内に、インシデント番号と収集日時を組み合わせた名前のサブディレクトリが作成されています（例：000-0314-5678_200003141400）。対象となる調査資料ディレクトリ全体を DAT にコピーします。
 - 調査資料のディレクトリ内に、.LINK ファイルがある場合
ファイルサイズが 10M を超えている場合は、保存域内には収集したファイルのフルパスが書き込まれた .LINK ファイルが保存されています。以下の操作を行い、LINK ファイルに書き込まれているファイルを DAT に保存してください。
 1. LINK ファイルを「メモ帳」などのテキストエディタで開きます。
 2. 先頭行に、ダブルクオート（“）で囲まれたフルパス名を確認します。
 3. フルパス名で指定されているファイルを、DAT に保存します。

■ Windows 2000 の場合

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [資料収集・送付] をクリックします。
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3** [管理メニュー] をクリックします。
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。
- 4** 保存する資料を選択し、[送信／退避] をクリックします。
センタ送信確認メッセージが表示されます。
- 5** 外部記憶装置への保存のみを行う場合、[キャンセル] をクリックします。
バックアップ確認メッセージが表示されます。
- 6** [OK] をクリックします。
バックアップするデバイスの選択画面が表示されます。



- 7** バックアップするデバイスを選択し、媒体をセット後 [次へ] をクリックします。
このとき、デバイス名には DAT と MO が表示されます（マルチボリューム対応の DAT 装置は使用できません）。
DAT 装置を選択した場合、テープのスロットを選択する画面が表示されます。

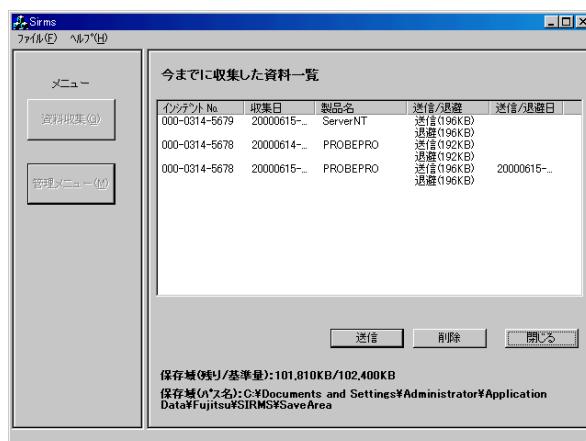


- 8** テープのスロットを選択し、バックアップモード（追加モードまたは上書きモード）を選択して [バックアップ開始] をクリックします。
バックアップが開始されると、バックアップツールが起動されて処理が行われます。
- 9** バックアップが完了すると、バックアップ完了メッセージが表示されます。
- 10** [OK] をクリックします。

B.5 調査資料の管理

収集済みの調査資料を送信したり、削除したりできます。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「リモートサポートサービス」→「運用操作」の順にクリックします。
- 2** [資料収集・送付] をクリックします。
「SIRMS メニュー」画面が表示されます。
- 3** [管理メニュー] をクリックします。
「SIRMS 管理メニュー」画面が表示されます。



項目	説明
インシデント No.	資料のインシデント No. です。
収集日	資料を収集した日付です。
製品名	製品名資料の製品名です。
送信／退避	送信した資料のファイルのサイズと、ハードディスク上に保存（退避）したファイルのサイズを表示します。送信サイズよりも退避サイズが大きい場合は、DAT などでバックアップして、センタに送付しなければならない調査資料があることを示しています。
送信／退避日	資料をセンタに送付した日時を表示します。まだセンタに送信していない資料は空白になっています。

■ 調査資料の送信

調査資料の収集時に送信しなかった場合などに操作します。この操作で送付できるのは、ファイルサイズが 700K バイト以下の調査資料のみです。

◀ 重要

- ▶ ファイルサイズが700Kバイトを超える調査資料については、DATなどの外部記憶装置に保存してください。保存した媒体はセンタに郵送するか、調査資料を E-mail の添付書類としてサポートデスクへ送信してください。送信先は、弊社サポート要員の指示に従ってください。保存方法については、「B.4 ソフトウェア調査資料を外部記憶装置へ保存する」(→ P.127) を参照してください。

- 1 資料一覧から、送信したい資料を選択して、[送信] をクリックします。
資料ファイルがセンタに送信可能なサイズ (700K バイト以下) の場合、センタ送信確認メッセージと送信内容確認画面が表示されます。
- 2 [OK] をクリックします。
選択した資料がセンタに送信されます。
送信作業が完了すると、送信完了メッセージが表示されます。

■ 調査資料の削除

調査資料を削除します。

- 1 資料一覧から、削除したい資料を選択して、[削除] をクリックします。
選択した資料ファイルが削除されます。

付録 C SMB に関する操作

旧サーバ機種で SMB を搭載している場合に必要な操作について、説明します。

C.1 H200 / N400 をお使いの場合（メンテナンス区画の変換）

H200、またはN400をお使いの場合で、SMB用のメンテナンス区画からRSB用のメンテナンス区画に変換する場合は、以下の操作を行ってください。

POINT

- ▶ ServerWizardで作成されたメンテナンス区画がある環境にRSBを搭載する場合や、SMBを使用していくRSBに切り替える場合などに、この操作が必要です。

- 1** サーバを起動し、Administrator 権限でログオンします。
- 2** REMCS エージェントの CD-ROM をセットします。
- 3** コマンドプロンプトを起動します。
- 4** 以下のようにコマンドを入力し、【Enter】キーを押します。
ここでは、CD-ROM ドライブを D ドライブとして説明します。
 1. d: 【Enter】キー
 2. cd fwutools 【Enter】キー
 3. fwutools -v -o 【Enter】キー
「ServicePartition mounted on H」と表示されます ("H" はサーバの設定により異なります)。
 4. fwutools -v -o -hH 【Enter】キー
"H" には、手順 3. のコマンド入力後表示されたドライブ名を指定してください。

C.2 SMB ドライバの起動

SMB を搭載している場合は、サービス開始前に SMB ドライバの起動を行う必要があります。Windows 2000 の場合は自動的に起動しますので、起動操作は必要ありません。正常に動作しているかどうかを確認してください。

■ Windows NT の場合

- 1** コントロールパネルを起動し、[デバイス] をダブルクリックします。
- 2** 「FUJITSU Server Management Assist Board」を選択して、[スタートアップ] をクリックします。
- 3** スタートアップの種類を「自動」に選択し、[OK] をクリックします。

- 4** [開始] をクリックします。
SMB ドライバが起動します。

■ Windows 2000 の場合（確認操作）

- 1** コントロールパネルを起動し、[システム] をダブルクリックします。
- 2** [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
デバイスマネージャが起動します。
- 3** 「その他のデバイス」の「Fujitsu Server Management Assist Board」をダブルクリックします。
「Fujitsu Server Management Assist Board」が表示されていない場合は、「● SMB ドライバのアップデート」（→ P.132）を行ってください。
プロパティ画面が表示されます。
- 4** デバイスが正常に動作していることを確認し、[OK] をクリックします。
デバイスが正常に動作していない場合は、[ドライバ] タブをクリックしてドライバを削除してください。サーバを再起動後、SMB ドライバをインストールしてください。

● SMB ドライバのアップデート

POINT

- ▶ SMB ドライバをアップデートする前に、SMB が正常に取り付けられていることを確認してください。
- ▶ SMB ドライバのアップデートには、REMCS エージェントの最新版の CD-ROM が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- 1** コントロールパネルを起動し、[システム] をダブルクリックします。
- 2** [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックします。
デバイスマネージャが起動します。
- 3** 「その他のデバイス」の「Fujitsu Server Management Assist Board」をダブルクリックします。
プロパティ画面が表示されます。
- 4** [ドライバ] タブをクリックし、[ドライバの更新] をクリックします。
デバイスドライバのアップグレードウィザードが表示されます。
- 5** ウィザードに従って、ドライバをインストールします。
REMCS エージェントの CD-ROM をセット後、REMCS インストールメッセージが表示された場合は、[キャンセル] してください。

C.3 サービス開始時の設定

SMB を搭載している場合、サービス開始設定の後、SMB の以下の設定が必要です。

- ・SMB ユーティリティの設定
- ・SMB 監視エージェント機能を有効にする
- ・SMB ログ監視エージェント機能を有効にする（ServerView 使用時のみ必要）

■ SMB ユーティリティの設定

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu SMB ユーティリティ」の順にクリックします。

Fujitsu SMB ユーティリティが起動します。

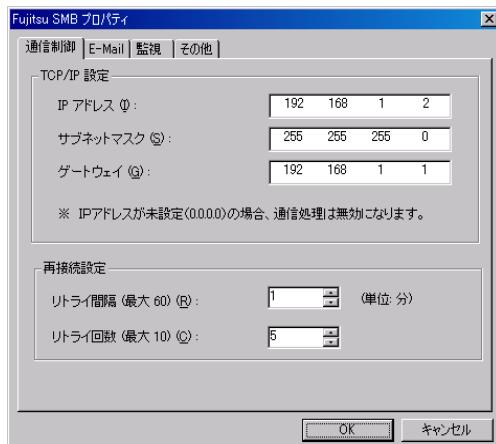
2 [設定する] をクリックします。

POINT

- ▶ [バージョン] をクリックすると、ドライバ版数、ファームウェア版数、MAC アドレスなどの情報が表示されます。

「Fujitsu SMB プロパティ」画面が表示されます。

3 [通信制御] タブをクリックし、ネットワークの設定をします。



項目	説明
IP アドレス	SMB リモート制御機能を使用するために、SMB 自身の IP アドレスを指定します。
サブネットマスク	IP アドレスに対するサブネットマスクを指定します。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイの IP アドレスを指定します。
リトライ間隔	E-mail で異常通知（サーバダウン）を行うときのリトライ間隔を、分単位で指定します。1 ~ 60 まで指定できます。初期値は 1 分です。
リトライ回数	E-mail で異常通知（サーバダウン）を行うときのリトライ回数を、指定します。1 ~ 10 まで指定できます。初期値は 5 回です。

POINT

- ここで設定するネットワークの各項目は、SMB 自身の設定です。サーバ上で稼動している Windows のネットワーク設定の更新ではありません。

4 [OK] をクリックします。

通信制御の設定が SMB に反映されます。

★プロパティ画面は終了しますか？継続して設定できますか？★

★以下継続して設定できる場合の手順です。継続できない場合はユーティリティの起動が追加になります★

5 [その他] タブをクリックし、時計設定、E-mail テストを行います。

★同時に設定できますか？★

●時計設定

1. [時計設定] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

2. [はい] をクリックします。

時計が設定され、終了のメッセージが表示されます。

3. [OK] をクリックします。

●E-mail テスト

1. [E-mail テスト] をクリックします。

確認メッセージが表示されます。メールアドレスは REMCS 環境設定時に設定したアドレスが表示されます。

メールアドレスが表示されない場合は、システムを再起動して再度 E-mail テストを行ってください。

2. [はい] をクリックします。

E-mail の送信テストが行われ、結果のメッセージが表示されます。

POINT

- 通信制御の設定を更新後、E-mail テストが正常に終了しなかった場合は、以下を参考に「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を再度設定し直してください。

IP アドレス	サブネットマスク
1.0.0.1 ~ 126.255.255.254	255.0.0.0
128.1.0.1 ~ 191.254.255.254	255.255.0.0
192.0.1.1 ~ 233.255.254.254	255.255.255.0

● サーバダウン監視の設定（GRANPOWER5000 ES200/PRIMERGY ES200/PRIMERGY ES210 をお使いの場合）★←これ以外の機種は対象外？★

Servervisor または LDSM がサーバダウン監視をサポートしていない場合は、SMB がサーバダウン監視をサポートします。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu SMB ユーティリティ」の順にクリックします。

Fujitsu SMB ユーティリティが起動します。

2 [設定する] をクリックします。

「Fujitsu SMB プロパティ」画面が表示されます。

3 [監視] タブをクリックします。

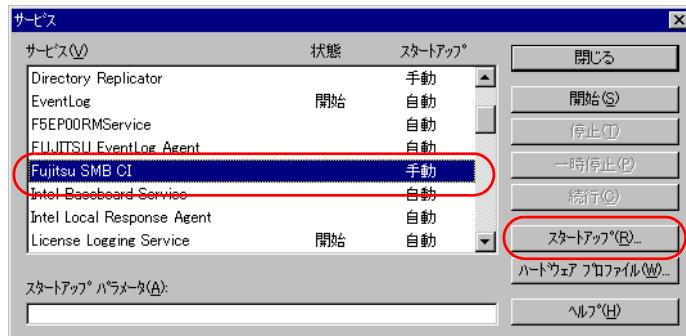
4 「ウォッチドックタイムアウト値の設定」を「ウォッチドックタイマ有効(アラート通知)」に設定し、[OK] をクリックします。

■ SMB 監視エージェント機能を有効にする

● Windows NT の場合

1 コントロールパネルを起動し、[サービス] をダブルクリックします。
「サービス」ダイアログが表示されます。

2 「Fujitsu SMB CI」を選択し、[スタートアップ] をクリックします。

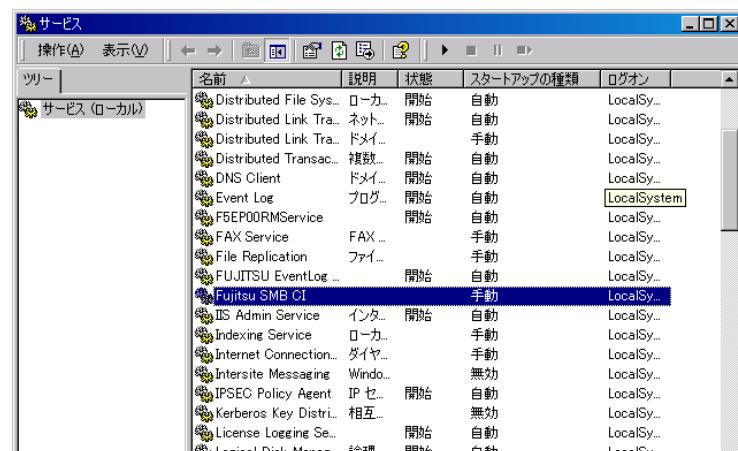


3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[OK] をクリックします。
「サービス」ダイアログに戻ります。

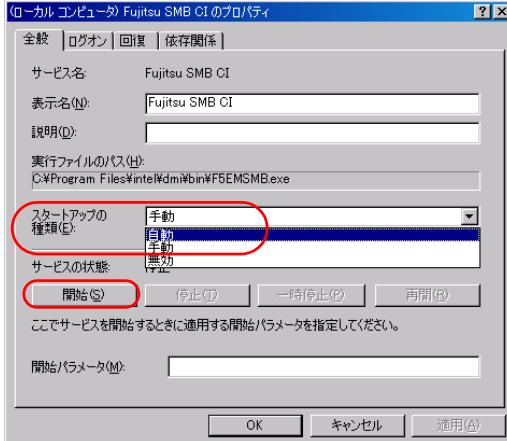
4 [開始] をクリックします。
SMB 監視エージェントが起動します。

● Windows 2000 の場合

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順に
クリックします。
「サービス」画面が表示されます。



- 2 「Fujitsu SMB CI」をダブルクリックします。**
プロパティ画面が表示されます。
- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[開始] をクリックします。**



SMB 監視エージェントが起動します。

- 4 [OK] をクリックします。**

■ SMB ログ監視エージェント機能を有効にする (ServerView 使用時のみ)

● Windows NT の場合

- 1 コントロールパネルを起動し、[サービス] をダブルクリックします。**
「サービス」ダイアログが表示されます。
- 2 「Fujitsu SMB SCM」を選択し、[スタートアップ] をクリックします。**



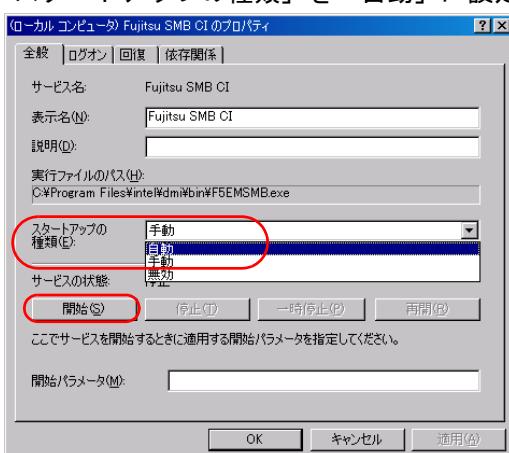
- 3 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[OK] をクリックします。**
「サービス」ダイアログに戻ります。
- 4 [開始] をクリックします。**
SMB ログ監視エージェントが起動します。

● Windows 2000 の場合

- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。
「サービス」画面が表示されます。



- 「Fujitsu SMB SCM」をダブルクリックします。
プロパティ画面が表示されます。
- 「スタートアップの種類」を「自動」に設定し、[開始] をクリックします。



SMB 監視ログエージェントが起動します。

- [OK] をクリックします。

付録 D Servervisor／LDSM のインストール、アンインストール

Servervisor/LDSM をインストール、またはアンインストールする場合の操作について説明します。Servervisor/LDSM の版数により操作が異なります。Servervisor/LDSM の版数をご確認ください。

● インストール

- ・ インストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合（→ P.138）
- ・ インストール V6.0 L10A/20/30 の場合（→ P.140）

● アンインストール

- ・ アンインストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合（→ P.143）
- ・ アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合（→ P.144）

操作には、以下の CD-ROM またはフロッピーディスクが必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- ・ REMCS エージェントの CD-ROM
- ・ Servervisor/LDSM の CD-ROM、または ServerWizard の CD-ROM
- ・ フォーマット済みの未使用のフロッピーディスク 1 枚

D.1 インストール

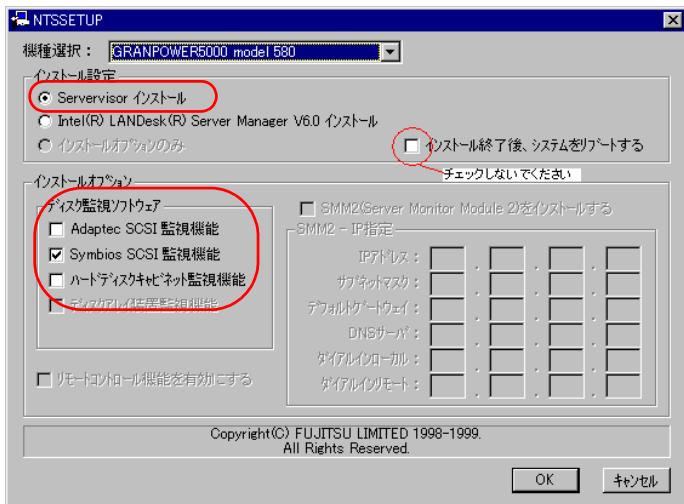
V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合

- 1** REMCS エージェントの CD-ROM、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2** エクスプローラを起動し、REMCSエージェントCD-ROM内の"Lfdfloppy"フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3** コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
 1. a:【Enter】キー
 2. LDINST【Enter】キー
 「続行するときは何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。
- 4** 【Enter】キーを押します。
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

5 CD-ROM ドライブにServervisor/LDSM のCD-ROM(またはServerWizardのCD-ROM)をセットし、[OK] をクリックします。

Servervisor/LDSM の版数によっては、以下の画面が表示される場合があります。

以下の設定を確認して [OK] をクリックしてください。



インストールが開始されます。

重要

- インストール終了のダイアログが表示された場合は、再起動しないで [キャンセル] をクリックしてください。

6 インストールが完了すると、コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」のメッセージが表示されます。CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。

再起動後、手順 3 を行い、Servervisor/LDSM がインストールされたことを確認してください。

● PRIMERGY TS120 / TS220 / ES320 の場合

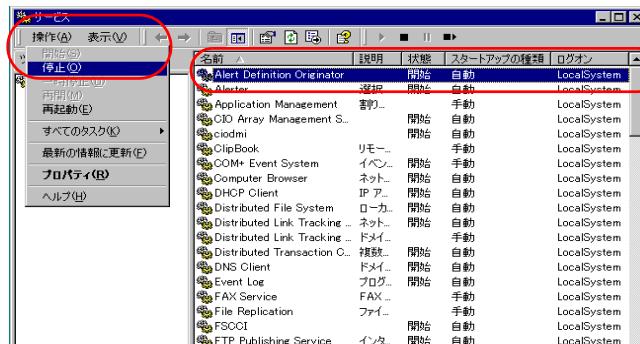
PRIMERGY TS120/TS220/ES320 をお使いの場合は、Servervisor/LDSM インストール後に、以下の設定を行ってください。

7 「Alert Definition Originator」サービスを停止します。以下の操作を行ってください。

● Windows 2000 の場合

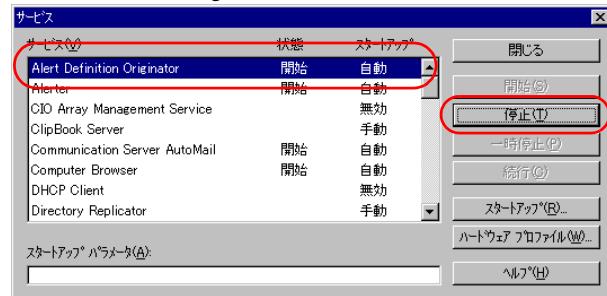
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。

2. 「Alert Definition Originator」を選択し、「操作」メニューから「停止」を選択します。



● Windows NT の場合

1. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
2. 「サービス」をクリックします。
3. 「Alert Definition Originator」を選択し、「停止」をクリックします。



- 8 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

● PRIMERGY TS120/TS220 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥TSX20 【Enter】キー
3. TSX20>CHGINI I 【Enter】キー

● PRIMERGY ES320 の場合

1. a: 【Enter】キー
2. cd ¥ES320 【Enter】キー
3. ES320>CHGINI I 【Enter】キー

D.2 インストール V6.0 L10A/20/30 の場合

- 1 REMCS エージェントの CD-ROM、フォーマット済みの未使用的フロッピーディスクをセットします。
- 2 エクスプローラを起動し、REMCSエージェントCD-ROM内の"Lf floppy"フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。

3 コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

1. a: 【Enter】キー
 2. LDINST 【Enter】キー
- メッセージが表示されます。

4 【Enter】キーを押します。

Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。

5 CD-ROM ドライブにServervisor/LDSMのCD-ROM(またはServerWizardのCD-ROM)をセットし、[OK] をクリックします。

「LDSM のマニュアル「お使いになる前に」に従い手動でインストールしてください。」のメッセージが表示されます。 LDSM のマニュアルを参照し、インストールを行ってください。

以下の画面では、「インストール終了後、システムをリブートする」にはチェックしないでください。



重要

▶ インストール完了後、ここではシステムを再起動しないでください。

6 インストール完了後、いったんコマンドプロンプトを閉じます。

7 再度コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

1. a: 【Enter】キー
2. RESTLD 【Enter】キー

8 表示されるメッセージに従って操作を行います。

9 コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクとCD-ROMを抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。

再起動後、手順 3 をを行い、Servervisor/LDSM がインストールされたことを確認してください。

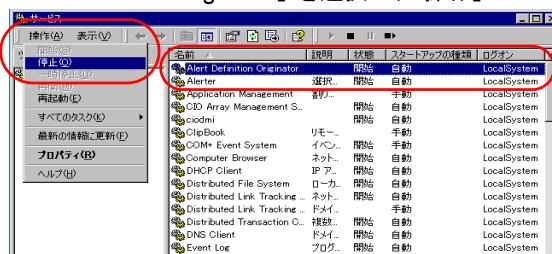
● PRIMERGY TS120 / TS220 / ES320 の場合

PRIMERGY TS120/TS220/ES320 をお使いの場合は、Servervisor/LDSM インストール後に、以下の設定を行ってください。

- 10** 「Alert Definition Originator」サービスを停止します。以下の操作を行ってください。

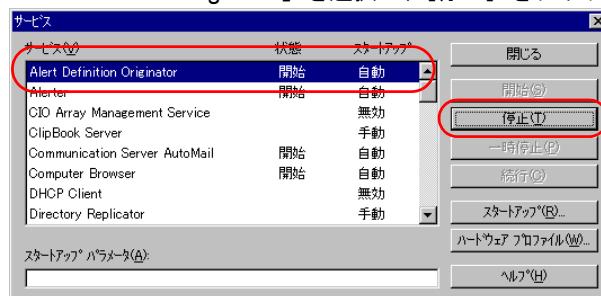
● Windows 2000 の場合

- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「サービス」の順にクリックします。
- 「Alert Definition Originator」を選択し、「操作」メニューから「停止」を選択します。



● Windows NT の場合

- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 「[サービス]」をクリックします。
- 「Alert Definition Originator」を選択し、「[停止]」をクリックします。



- 11** コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。

● PRIMERGY TS120/TS220 の場合

- a: 【Enter】キー
- cd ¥TSX20 【Enter】キー
- TSX20>CHGINI ! 【Enter】キー

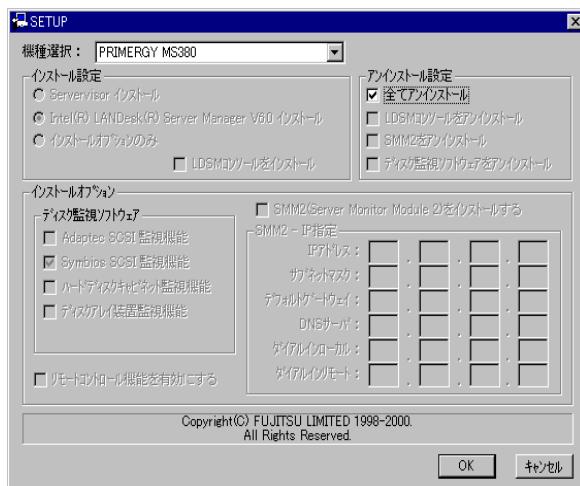
● PRIMERGY ES320 の場合

- a: 【Enter】キー
- cd ¥ES320 【Enter】キー
- ES320>CHGINI ! 【Enter】キー

D.3 アンインストール V6.0 L10/20A/30A/40/40A/40B/41/45/50/55 の場合

- 1** REMCS エージェントの CD-ROM、フォーマット済みの未使用的フロッピーディスクをセットします。
- 2** エクスプローラを起動し、REMCSエージェントCD-ROM内の"Lfdfloppy"フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3** コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
 1. a:【Enter】キー
 2. LDUINST【Enter】キー

「続行するときは何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。
- 4** 【Enter】キーを押します。
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 5** CD-ROM ドライブにServervisor/LDSMのCD-ROM(またはServerWizardのCD-ROM)をセットし、[OK] をクリックします。
アンインストーラが起動し、以下の画面が表示されます。



- 6** 「全てアンインストール」にチェックを付けて [OK] をクリックします。
アンインストール完了後、再起動を促すメッセージが表示されます。
- 7** [キャンセル] をクリックします。
- 8** コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。
再起動後、手順 3 をを行い、Servervisor/LDSM がアンインストールされたことを確認してください。

D.4 アンインストール V6.0 L10A/20/30 の場合

- 1** REMCS エージェントの CD-ROM、フォーマット済みの未使用のフロッピーディスクをセットします。
- 2** エクスプローラを起動し、REMCSエージェントCD-ROM内の"Lf floppy"フォルダに格納されているすべてのファイルをフロッピーディスクにコピーします。
- 3** コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
 1. a: 【Enter】キー
 2. LDUINST 【Enter】キー

「続行するときは何かキーを押してください。」のメッセージが表示されます。
- 4** 【Enter】キーを押します。
Servervisor/LDSM の CD-ROM をセットするようメッセージが表示されます。
- 5** CD-ROM ドライブにServervisor/LDSM の CD-ROM(またはServerWizard の CD-ROM) をセットし、[OK] をクリックします。
「LDSM のマニュアル 「お使いになる前に」に従い手動でインストールしてください。」のメッセージが表示されます。 LDSM のマニュアルを参照し、インストールを行ってください。

重要

▶ インストール完了後、ここではシステムを再起動しないでください。

- 6** コマンドプロンプト画面で、以下のコマンドを入力して【Enter】キーを押します。
 1. a: 【Enter】キー
 2. RESTLDUN 【Enter】キー
- 7** 表示されるメッセージに従って操作を行います。
「続行するときは何かキーを押してください・・・」のメッセージが表示されたら、【Enter】キーを押してください。
- 8** コマンドプロンプト画面に「フロッピーディスクと CD-ROM を抜いてシステムを再起動してください。」と表示されたら、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出し、システムを再起動します。
再起動後、手順 3 をを行い、Servervisor/LDSM がインストールされたことを確認してください。

索引

あ

アップデート

- ファームウェア 122
- REMCS エージェント 122

アンインストール

- REMCS エージェント 119
- Servervisor/LDSM 138

い

インストール

- 必要なもの 16
- REMCS エージェント 21
- Servervisor/LDSM 138
- SNMP サービス 18

インストールの流れ

- 一般サーバの場合 16
- ブレードサーバの場合 17

インターネット接続

 インターネット接続 (メール) 10

 インターネット接続 (メール) 10

う

REMCS エージェント

- 上書きインストール 122
- 上書きインストール
 REMCS エージェント 122

お

オンラインアップデート

- ファームウェア 70
- REMCS エージェント 72

か

環境設定

- インターネット接続 28
- インターネット接続 (メール) 37
- 管理サーバ接続 42
- 変更 67
- P－P 接続 54
- VPN 接続 62
- 管理サーバ接続 10
- 管理サーバ設定の変更 69

こ

構成情報の送信 76

さ

サービスの開始

- インターネット接続 24

- インターネット接続 (メール) 33
- 管理サーバ接続 42
- P－P 接続 50
- VPN 接続 58

し

自動ダウンロード

- ファームウェア 70

手動ダウンロード

- ファームウェア 70
- REMCS エージェント 73

障害の通知

- サーバ本体 78
- I/O 装置 79
- Servervisor V1.0 の場合 80
- Servervisor V1.1 以降の場合 80

障害発生 78

せ

接続確認

- インターネット接続 32
- インターネット接続 (メール) 40
- 管理サーバ接続 49
- P－P 接続 57
- VPN 接続 65

そ

ソフトウェア調査資料のインシデント番号修正 90

ソフトウェア調査資料の外部記憶装置への保存 (SIRMS バージョン 1 の場合) 127

ソフトウェア調査資料の管理 88

ソフトウェア調査資料の管理 (SIRMS バージョン 1 の場合) 129

ソフトウェア調査資料の削除 89

ソフトウェア調査資料の削除 (SIRMS バージョン 1 の場合) 130

ソフトウェア調査資料の収集 82

- 製品名一覧 83

- ファイル名指定 85

- 保存場所 86

ソフトウェア調査資料の収集 (SIRMS バージョン 1 の場合) 123

- 製品名一覧 124

- ファイル名 125

- 保存場所 126

ソフトウェア調査資料の送信 89

ソフトウェア調査資料の送信 (SIRMS バージョン 1 の場合) 130

ソフトウェア調査資料のタイプ	87
ソフトウェア調査資料のタイプ（SIRMS バージョン 1 の場合）	127
ソフトウェア調査資料の内容表示	89
て	
定期接続時刻の変更	67
適用	
ファームウェア	71
REMCS エージェント	73
適用フロッピーディスク	72
と	
動作環境	13
トラブル	
アンインストール時	108
インストール時	94
運用操作メニュー	100
管理サーバ接続時	109
サービス開始時	95
ほ	
保守作業開始	81
保守作業終了	81
れ	
レジストレーション	
インターネット接続	24
インターネット接続（メール）	33
管理サーバ接続	46
変更	66
P-P 接続	50
VPN 接続	58
E	
E-mail 設定の変更	68
H	
HTTP 設定の変更	68
P	
P-P 接続	11
R	
REMCS エージェント	8, 21
上書きインストール	122
機能	9
特長	8
アップデート	122
メリット	9
REMCS エージェント環境チェックツール	110
格納場所	110
画面	110
資料収集	116
注意事項	117
HTTP チェック	113
SMTP チェック	112
REMCS エージェントのバージョン確認	118
REMCS センタとの接続形態	10
REMCS センタとの接続再開	74
REMCS センタとの接続停止	74
RSB	13
RSB 設定の変更	69
S	
SIRMS の環境設定	91
調査資料の自動削除	92
トレースレベルの設定	92
ファイルサイズ	91
保存域のサイズ	92
保存域の場所	92
ミニダンプ	91
ログファイルの設定	92
SMB	131
サーバダウン監視の設定	134
サービス開始時の設定	133
H200/N400 の場合	131
SMB 監視エージェント機能を有効にする	135
SMB ドライバの起動	131
SMB ユーティリティの設定	133
SMB ログ監視エージェント機能を有効にする	136
SNMP サービス	18
V	
VPN 接続	12

REMCS エージェント 運用ガイド

(REMCS V3.0L52)

B7FH-1461-01 Z0-00

**発行日 2003年1月
発行責任 富士通株式会社**

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。